

恵那市リニアまちづくり 基盤整備計画(案)

～リニアまちづくり構想の実現のための基盤整備～
令和元年度(2019)

令和元年〇〇月

恵那市

目次

はじめに	1
第1章 計画の概要	
1 計画の位置づけ	2
2 計画期間	2
3 整備方針と取組内容	3
第2章 前期計画	
1 広域アクセスに関する要望	12
2 市街地環状道路の整備	13
3 市街地縦断道路の整備	20
4 スマートインターチェンジ及びアクセス道路整備	21
5 瑞浪恵那道路整備に伴う周辺道路整備と武並駅周辺の基盤整備	22
6 恵那西工業団地及びアクセス道路の整備	25
7 リニア軌道により分断される道路・水路等の機能回復	26
8 リニアの工事用道路の計画的利用	36
計画路線対象図（前期）	37
第3章 後期計画	
1 市街地縦断道路の整備	38
2 リニア及び瑞浪恵那道路沿線地域のまちづくり	39
計画路線対象図（前期・後期）	42
第4章 将来計画	
1 市街地環状道路の整備	43
3 市街地縦断道路の整備	45
4 恵那駅北地区の基盤整備	46
計画路線対象図（前期・後期・将来）	47
第5章 計画の推進にあたって	
1 計画推進のための取組方法	48
リニアまちづくり基盤整備計画策定委員名簿	49
リニアまちづくり基盤整備計画策定委員会設置要綱	50

はじめに

リニア中央新幹線（以下、「リニア」という。）は、2027年（令和9年）に東京から名古屋まで開業が予定されており、中津川市西部に（仮称）リニア岐阜県駅（以下、「リニア岐阜県駅」という。）が設置されることとなっています。また、2037年（令和19年）※には大阪までの全線開業が予定されており、首都圏や関西圏を始めとする全国各地とのアクセス環境が飛躍的に向上します。これにより、大都市圏との所要時間短縮による市民の利便性の向上とともに、地域間交流の活性化によって、地域の観光や産業等への幅広い波及効果が期待されます。

こうした中、恵那市においては、地域の発展に向けた千載一遇の機会を活かし、市民・事業者・行政が一体となって、リニア開業を見据えたまちづくりを進めていく必要があります。特に中山間地を多く抱える恵那市においては、人口減少や少子高齢化に対応した地域づくりを進めていくことは喫緊の課題でもあり、リニア開業を契機とした、新たな地域の将来像を描いていく必要があります。

以上のような背景・趣旨を踏まえ、恵那市ではリニア開業を見据えたまちづくり・地域づくりの方向性と、市民・事業者・行政による取組みの指針として、平成26年に、リニアまちづくり構想を策定しました。第2次恵那市総合計画にリニアまちづくり構想を反映させることで「観光振興・まちづくり」、「産業振興・地域振興」の分野の取組みを進めています。現在、東海旅客鉄道株式会社（以下「JR東海」という。）によるリニア中央新幹線軌道計画が定まってきており、基盤整備の分野に関して具体的に事業を実施する段階にきています。

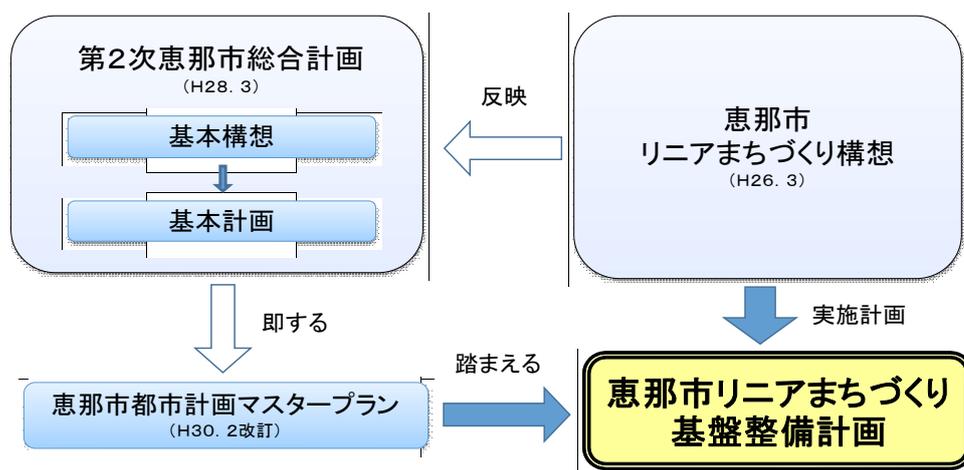
本計画は、「リニアまちづくり構想」の「目指すべき将来像」である「リニアでわくわく ちょうど えーなー 暮らしのびのび、遊びウキウキ、仕事すいすい、未来のふるさとづくり。」の実現に向け、基盤整備計画として策定するものです。リニアインパクトによる企業誘致や住宅地整備などに繋がる戦略的的道路整備や、リニアにより分断される地域の影響の緩和、市街地の課題・地域の課題の解決に向けた基盤整備を推進していきます。

※ JR東海は、東京－大阪間の開業を当初は2045年としていましたが、政府の3兆円の財政投融資により最大8年間前倒しできるとしたため、東京－大阪間の開業を2037年で想定しています。

第1章 計画の概要

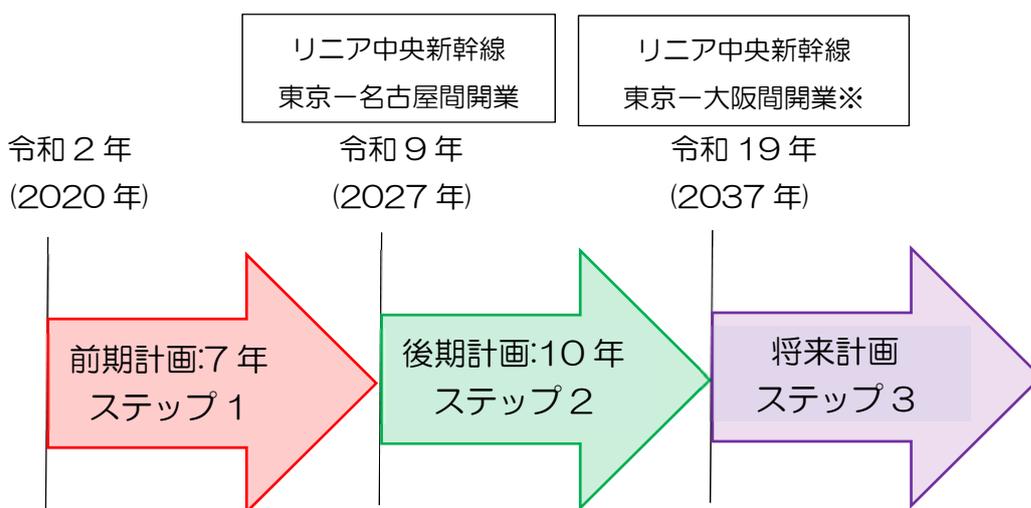
1 計画の位置づけ

本計画は、第2次恵那市総合計画などに即して策定された恵那市都市計画マスタープランで示している将来都市像を踏まえながら、リニアまちづくり構想に掲げる基盤整備施策の具体的な計画について定めるものです。



2 計画期間

本計画の期間は、前期計画（リニア 東京－名古屋間開業まで7年間）・後期計画（リニア 東京－大阪間開業※まで10年間）・将来計画（リニア 東京－大阪間開業※以降）に分け、整備計画に実施時期を設定し、事業を分類します。



※ JR東海は、東京－大阪間の開業を当初は2045年としていましたが、政府の3兆円の財政投融資により最大8年間前倒しできるとしたため、東京－大阪間の開業を2037年で想定しています。

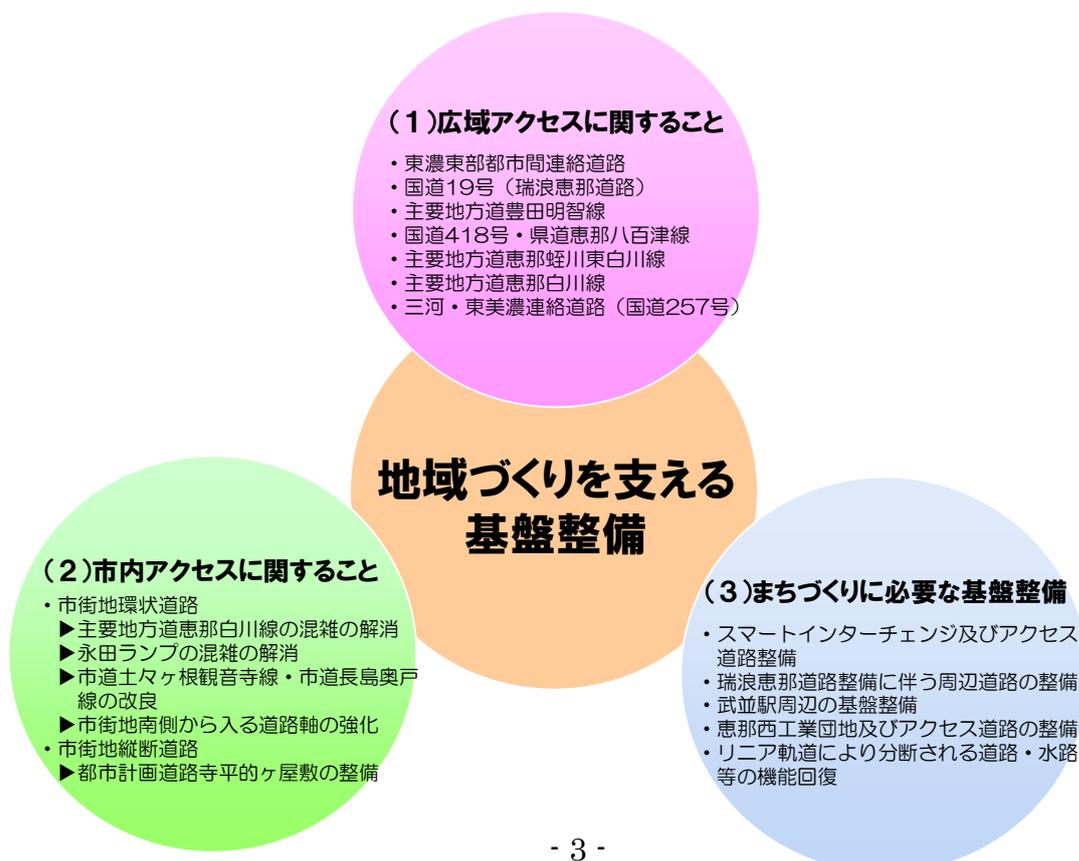
3 整備方針と取組内容

2027年の東京―名古屋間のリニア開業は、日本の中心である首都圏との距離が大幅に縮まることで、岐阜県にとって大きなインパクトをもたらすことが想定されます。なかでも、恵那市はリニア岐阜県駅が設置される中津川市と隣接していることから、そのインパクトを大きく享受できるポテンシャルを持ち合わせています。

リニアまちづくり構想では、「地域づくりを支える基盤整備の取組み」として、基盤整備方針を「広域アクセスに関すること」「市内アクセスに関すること」「まちづくりに必要な基盤整備」の3つの施策に体系づけ、地域づくりを支える基盤整備の取組みを示しています。

本計画では、この3つの施策を達成するための具体的な事業を、前期計画・後期計画・将来計画と3つの期間において効果的に実施できるよう、整備効果の高い事業から順番に体系付けました。前期計画では、広域アクセスに関する要望、市街地環状道路の整備、市街地縦断道路の整備、スマートインターチェンジ及びアクセス道路整備、瑞浪恵那道路整備に伴う周辺道路整備と武並駅周辺の基盤整備、恵那西工業団地及びアクセス道路の整備、リニア軌道による分断される道路・水路の機能回復、リニアの工事用道路の計画的利用、後期計画では、市街地縦断道の整備、リニア及び瑞浪恵那道路沿線地域のまちづくり、将来計画では、市街地環状道路の整備、市街地縦断道路の整備、恵那駅北地区の基盤整備を進めます。

リニアインパクトを着実にとらえ、市の活性化へと結びつけ、観光や産業の振興によるまちづくりを支えるための基盤整備の具体的な取組みを以下に示します。



(1) 広域アクセスに関すること

リニアの中間駅であるリニア岐阜県駅との交通アクセスについては、在来線の中央本線に加え、車が主な交通手段であるこの地域においては、道路が重要な役割を果たします。広域的な交通基盤においては、東西方向に加え南北方向の交通基盤を整え、この地域に人やモノが集まる交通の結節点となるよう整備することが望ましいと考えます。

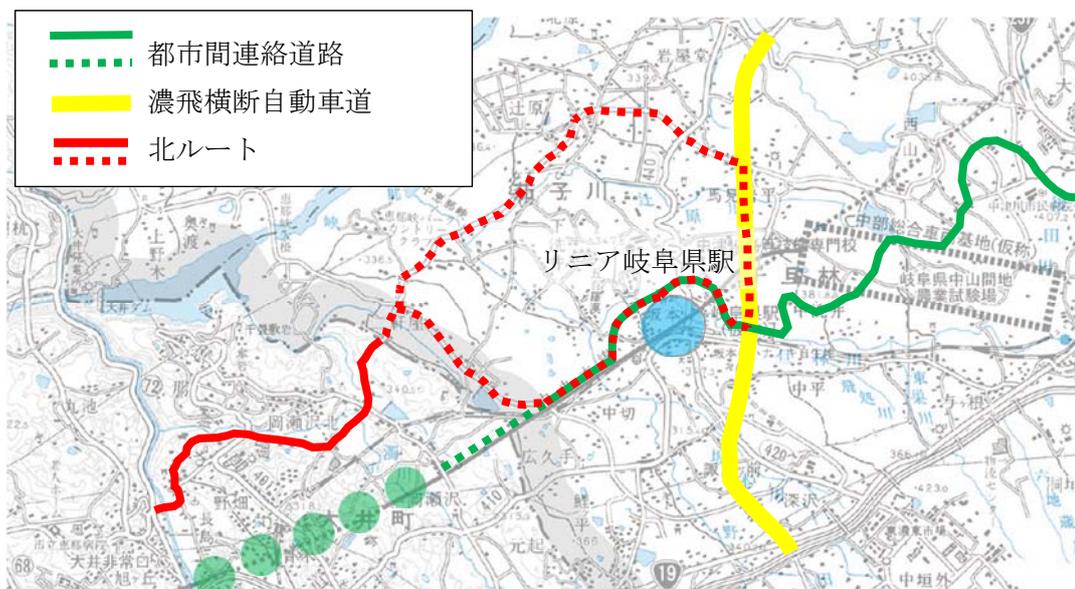
広域アクセスの整備により、周辺地域（市）との連携（結びつき）を強化し、ひと（観光）、もの（産業）、かね（商業）を外部から呼び込みます。特に産業の集積している愛知県（豊田市）との結びつきを強化するために、南北の幹線ルートの強化及び多重化を図ります。東西においては、国道19号瑞浪恵那道路の整備により、物流の大動脈をさらに強化し、産業振興・観光振興に波及させていきます。

そこで、以下に掲げる広域的な道路について、整備促進に向け取り組みます。

○東濃東部都市間連絡道路

中津川市街地から中津川市に設置されるリニア岐阜県駅を經由し、恵那市へ至る東濃東部都市間連絡道路の構想の実現に向け、岐阜県及び中津川市と協議を進め、深度化を図ります。この都市間連絡道路が整備されることにより、恵那市からリニア岐阜県駅への移動時間が短縮されることが見込まれます。また、県道網再編により将来の県道苗木恵那線となる可能性もあり、未整備区間の多い現在の県道苗木恵那線の交通量を減らすことも予想されます。

開業後、当面の間は東濃東部都市間連絡道路の代替道路として、濃飛横断自動車道、中津川市道、恵那市道土々ヶ根観音寺線・長島奥戸線（以下「北ルート」という）を想定し、恵那市内の市道の改良及び沿道の修景を推進し、沿線地域の賑わいを創出します。



○国道19号（瑞浪恵那道路）

国道19号は、中央自動車道とともに東濃地方を東西に結ぶ最も基幹的な道路となっています。

現在、渋滞、事故等の交通課題の解消や、リニア中央新幹線の開業時の地域貢献に寄与するため、国道19号瑞浪恵那道路の整備が進んでいます。瑞浪恵那道路が早期に整備されるよう、国に求めています。

市内には瑞浪恵那道路整備後も2車線の区間があるため、全線4車線となるよう調整を行います。

また、国道19号と県道66号線の交差点となる永田ランプの混雑解消のため、信号の設置や右折帯の設置についても働きかけを行います。

○主要地方道豊田明智線

産業の一大集積地である豊田市との結びつきを強化する南の玄関口と言える道路であり、本路線の整備は当市にとってとても重要です。リニア開業後は、豊田市近辺から車を利用し、駅からリニアに乗車する際には、リニア岐阜県駅が利用されることが想定されます。これらの理由より、主要地方道豊田明智線の整備促進に努めます。

○国道418号・一般県道恵那八百津線

現在、八百津方面との連携強化につながる国道418号の整備が国土交通省により進められています。この整備により、八百津方面から恵那市街地やリニア岐阜県駅への移動が格段にスピードアップします。しかし、県道恵那八百津線には狭隘な箇所がまだ複数あるため、引き続き国や県に対し、調整を図ります。

○主要地方道恵那蛭川東白川線

主要地方道恵那蛭川東白川線は、下呂・高山方面とアクセスする北の玄関口といえる道路であり、地域間の物流や交流を支える重要な道路としての役割を担っています。2015年には東雲大橋が完成し利便性が向上しましたが、未整備区間もあるため、今後も整備促進について働きかけます。

また、この路線は市街地環状道路及び北ルートとして設定している市道長島奥戸線や都市計画道路寺平的ヶ屋敷線と接続しており、整備効果の高い道路となっています。旭ヶ丘交差点から長島西交差点までの区間については、特に早期の整備について調整を図ります。

○国道363号（花白バイパス）

国道363号は明智町、山岡町、岩村町を通る、恵那市を東西に抜ける幹線道路であり、緊急輸送道路に指定されている重要な路線です。この路線のうち、山岡町馬場山田地内の幅員狭小区間及び線形不良区間について改良が進められています。地域住民や観光客が安全で円滑な通行ができるよう、早期の整備を求めています。

○主要地方道恵那白川線

主要地方道恵那白川線は、白川町から恵那市中野方町、笠置町を經由して市街地に至る幹線道路であり、沿線地域の生活・産業・経済を支える重要な道路です。市街地の中心を東西に結ぶ基幹的な道路でもあり、歩道の設置や道路改良を求めています。特に市街地にある佐渡橋は重量規制がかかっているため、橋の付け替えや補強について働きかけます。

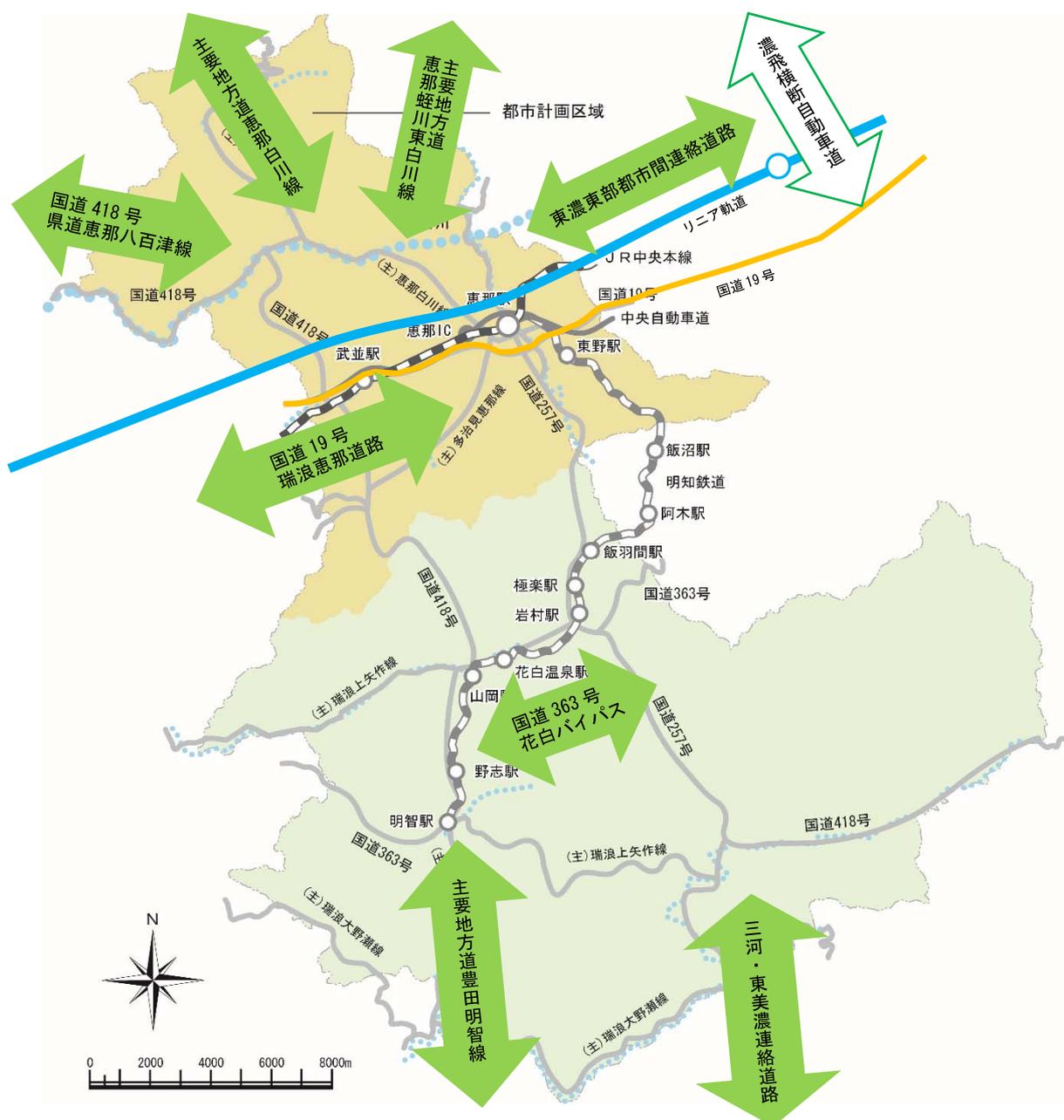
○三河・東美濃連絡道路

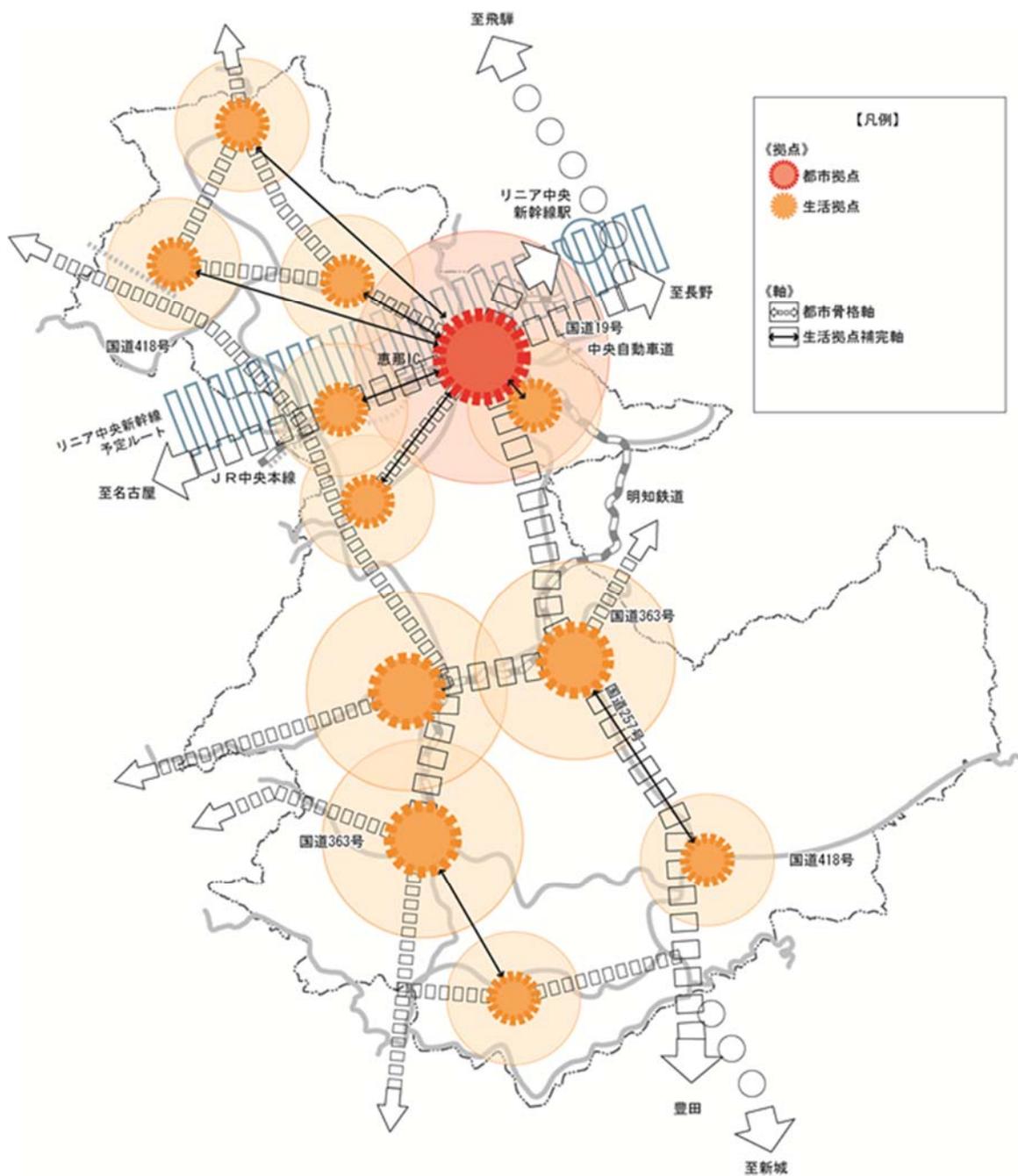
平成28年2月に新東名高速道路が開通され、南北軸となる三河・東美濃連絡道路を整備する意義、必要性はとて大きなものとなりました。奥三河地域と東美濃を結ぶ三河・東美濃連絡道路が整備されると、奥三河とのアクセスのみならず、静岡・東京方面とのアクセスも飛躍的に向上することとなります。

また、リニア岐阜県駅より岩村町、明智町などの観光地に向かうバスがスムーズに通行するためにも、国道257号を軸とする三河・東美濃連絡道路の整備は不可欠です。今後も三河・東美濃連絡道路の整備促進について働きかけを行います。

これら広域的な交通アクセスについては、中津川市をはじめ近隣の市町や国、岐阜県と十分な協議を行い、連携しながら整備を進めます。

また、これらの広域的な交通アクセスを踏まえ、「市内アクセスに関すること」「まちづくりに必要な基盤整備」に取り組んでいきます。



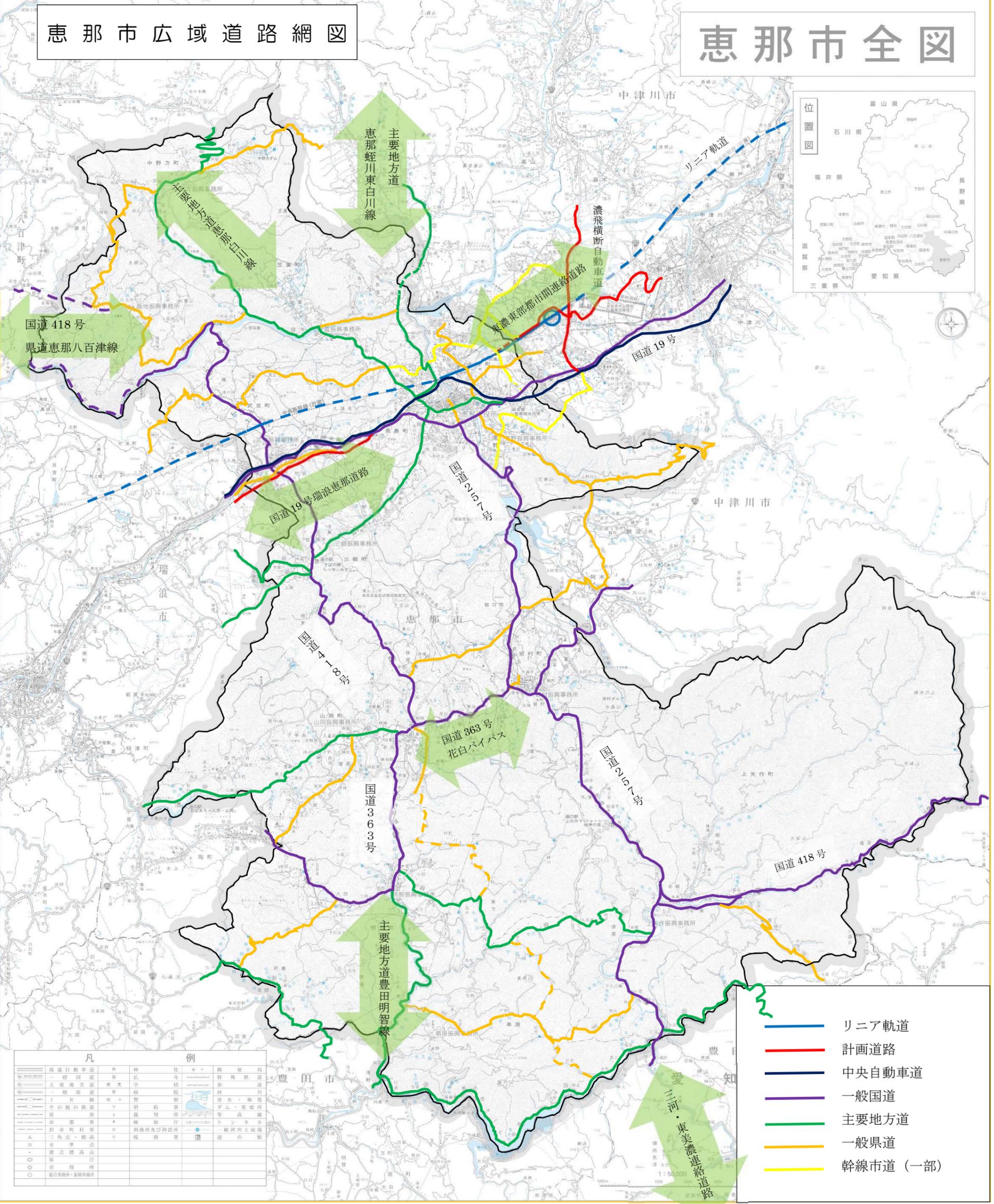


将来都市構造図（出展：恵那市都市計画マスタープラン）

<p>対象となる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域アクセスの整備促進を図る 	P12
---	-----

恵那市広域道路網図

恵那市全図



- リニア軌道
- 計画道路
- 中央自動車道
- 一般国道
- 主要地方道
- 一般県道
- 幹線市道（一部）

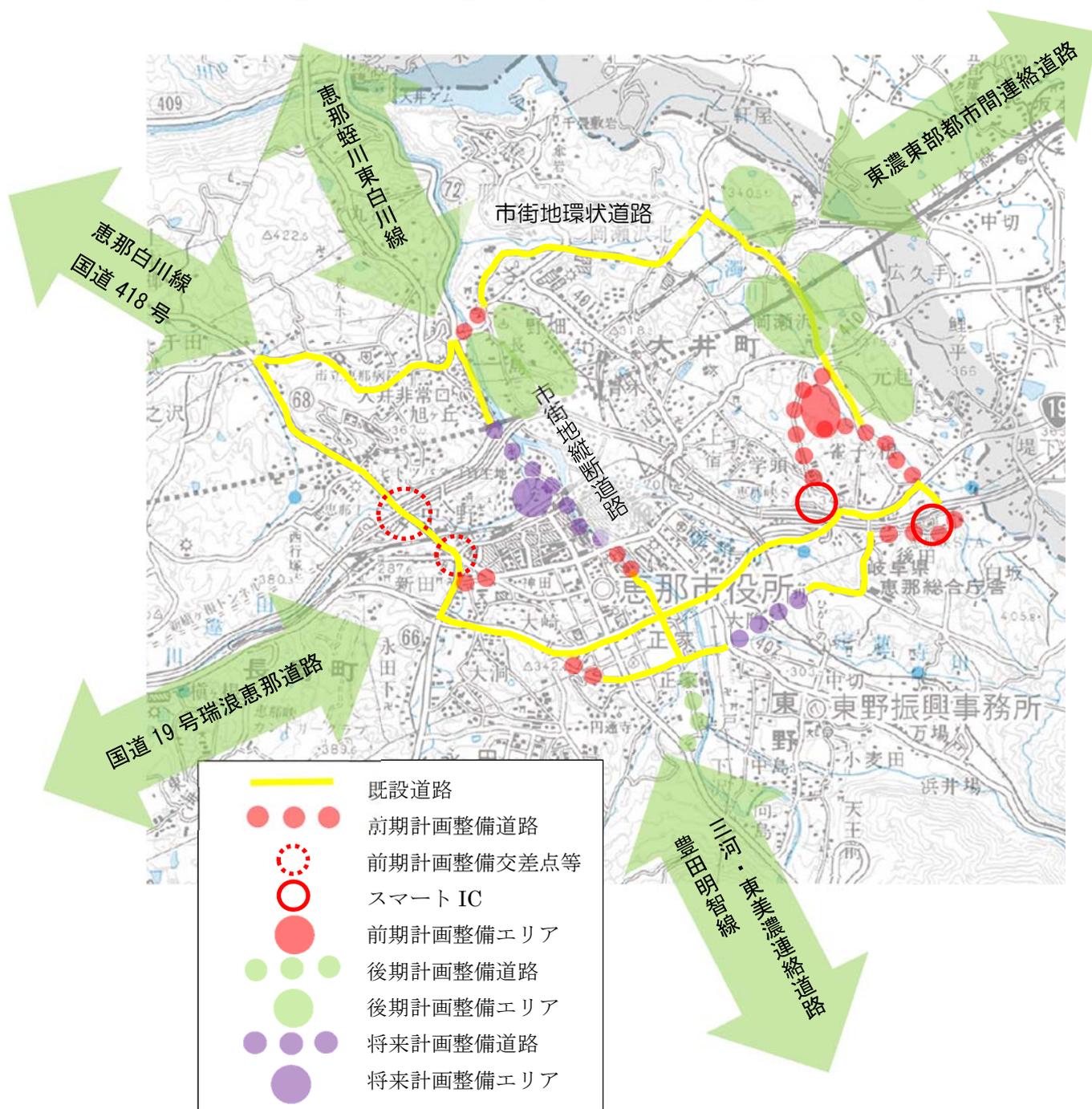
凡		例	
高速自動車道	特 社	特 社	特 社
一般国道	特 社	特 社	特 社
主要地方道	特 社	特 社	特 社
一般県道	特 社	特 社	特 社
その他の県道	特 社	特 社	特 社
市道	特 社	特 社	特 社
市町村界	特 社	特 社	特 社
三角点・標高	特 社	特 社	特 社
水準点	特 社	特 社	特 社
橋立標高	特 社	特 社	特 社
電 柱	特 社	特 社	特 社
電 線	特 社	特 社	特 社
組合事務所・出張事務所	特 社	特 社	特 社

(2) 市内アクセスに関すること

1) 市街地環状道路及び市街地縦断道路の整備

周辺部から市街地へ流入する交通を分散化させ、市街地の慢性的な渋滞の解消を図り、交通の速達性の向上を図るため、環状道路の整備を進めます。環状道路の整備にあたっては、既存道路を有効に利用しながら、必要な区間について順次整備を行います。環状道路の南側は、国道19号に交通が集中しないよう、国道19号の南側に環状道路を設け、道路軸の強化を図ります。

また、都市計画道路寺平的ヶ屋敷線を市街地縦断道路と位置づけ、整備を進めます。



対象となる事業	
・市街地環状道路の整備	P13,43
・市街地縦断道路の整備	P20,38,45

(3) まちづくりに必要な基盤整備

リニア建設工事に合わせ、工事用道路やリニア軌道の側道などの建設に加え、リニアに伴う地域の分断等を最小限に抑えるための基盤整備を行います。そのためには、リニアや広域幹線の整備に伴って発生するストック効果を有効に活用し、土地利用の増進、商工業の発展、地域振興への効果が見込まれるアクセス道路や周辺整備を進める必要があります。

恵那インターチェンジ利用者を分散させ、恵那インターチェンジ周辺の混雑を解消するため、恵那峡サービスエリアにスマートインターチェンジの設置を目指します。

また、リニア軌道沿線地域及び瑞浪恵那道路沿線地域の基盤整備計画の策定を行い、計画的な基盤整備を進めます。

対象となる事業	
・スマートインターチェンジ及びアクセス道路整備	P21
・瑞浪恵那道路整備に伴う周辺道路整備と武並駅周辺の基盤整備	P22
・恵那西工業団地及びアクセス道路の整備	P25
・リニア軌道により分断される道路・水路等の機能確保	P26
・リニアの工事用道路の計画的利用	P36
・リニア及び瑞浪恵那道路沿線地域のまちづくり	P39
・恵那駅北地区の基盤整備	P46

実施事業の一覧	実施事業	実施時期		
		前期計画	後期計画	将来計画
基本施策	広域アクセスに関すること	↕	↕	↕
	市内アクセスに関すること	↕	↕	↕
		市街地縦断道路の整備	↕	↕
まちづくりに必要な基盤整備	スマートインターチェンジ及びアクセス道路整備	↕		
	瑞浪恵那道路整備に伴う周辺道路整備と武並駅周辺の基盤整備	↕	↕	
	恵那西工業団地及びアクセス道路の整備	↕		
	リニア軌道により分断される道路・水路等の機能確保	↕		
	リニアの工業道路の計画的利用	↕		
	リニア及び瑞浪恵那道路沿線地域のまちづくり		↕	
	恵那駅北地区の基盤整備			↕

第2章 前期計画（ステップ1）

1 広域アクセスの整備促進を図る

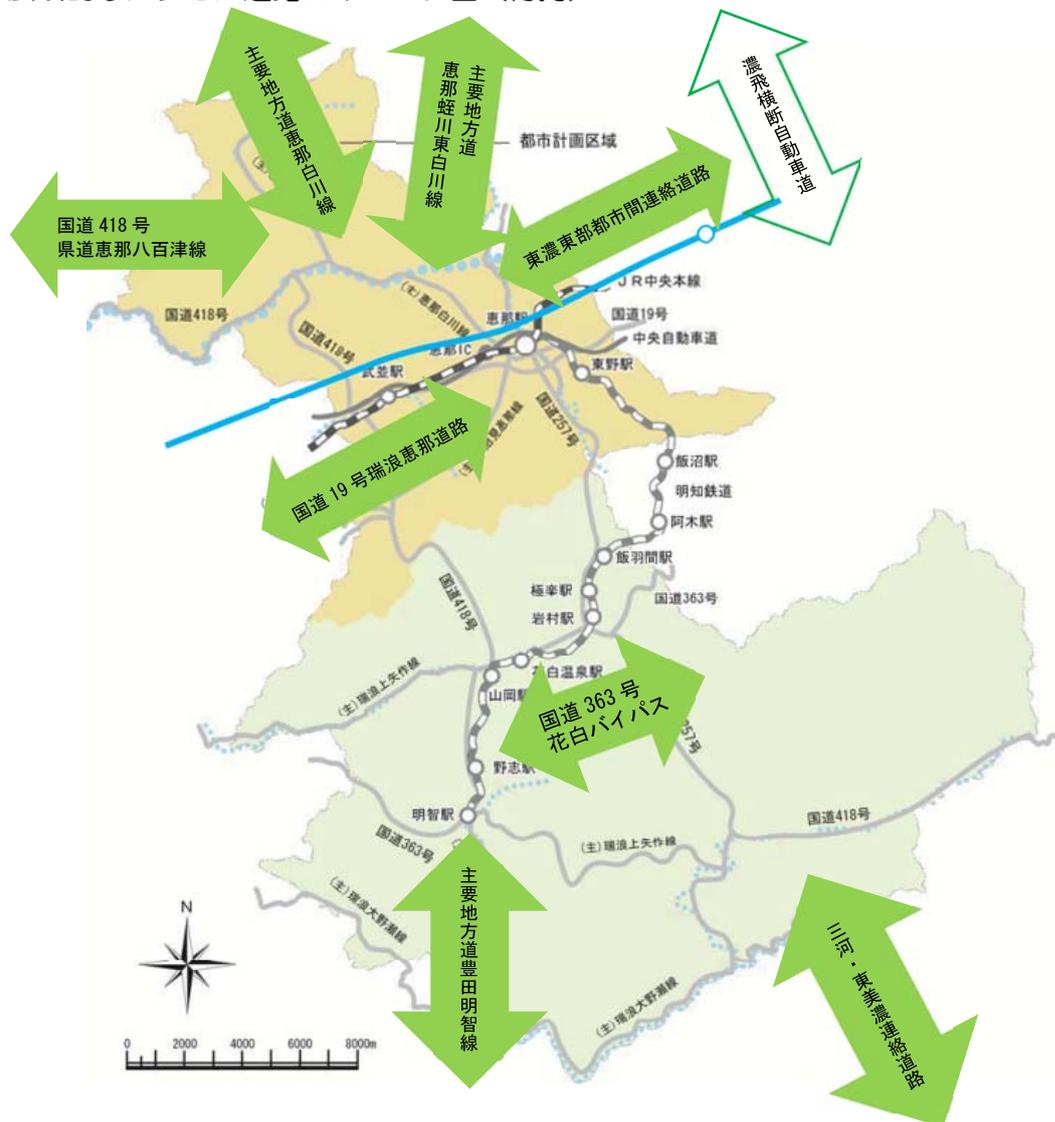
恵那市が人やモノが集まる交通の結節点となり、開業後リニアインパクトを最大限享受するためには、広域アクセスを出来るだけ早期に整備する必要があります。また、広域アクセス道路の整備により、リニア効果も重なり、市外の人が恵那市に訪れる機会を増やすことにも繋がります。

そこで、下記に挙げる広域アクセス道路の整備について進められるよう、国や県などの関係機関と調整を図っていきます。

また、調整については当該道路が整備されるまで続くこととなり、後期計画、将来計画まで続くことも考えられます。

- 東濃東部都市間連絡道路
- 国道19号（瑞浪恵那道路他）
- 主要地方道豊田明智線
- 国道418号・県道恵那八百津線
- 主要地方道恵那蛭川東白川線
- 国道363号（花白バイパス）
- 主要地方道恵那白川線
- 三河・東美濃連絡道路（国道257号）

広域的なアクセス道路のイメージ図（再掲）



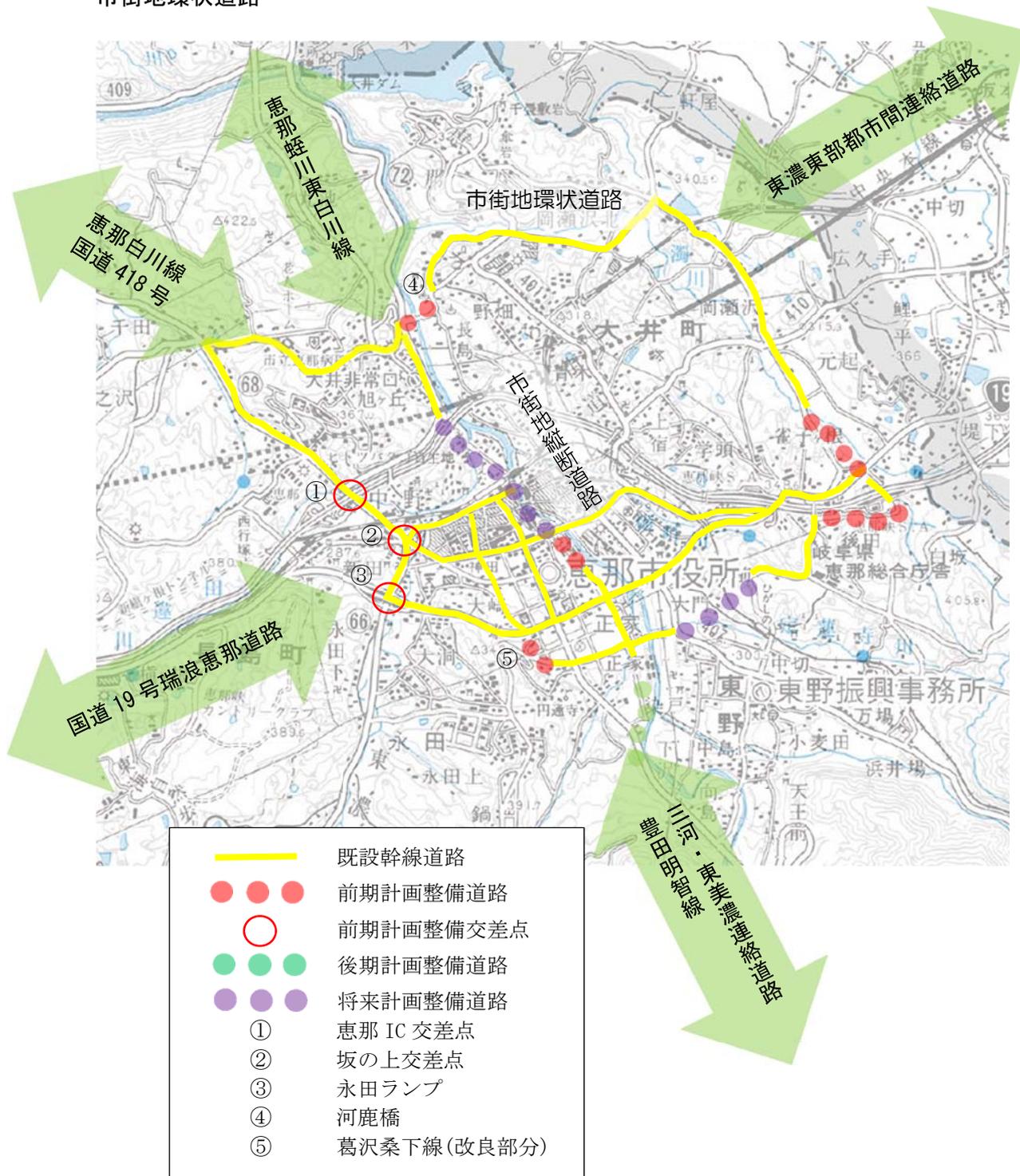
2 市街地環状道路の整備

(1) 市街地環状道路の前期計画における整備方針

市街地環状道路の整備にあたっては、既存道路を有効に活用しながら、必要な区間について順次整備を行います。

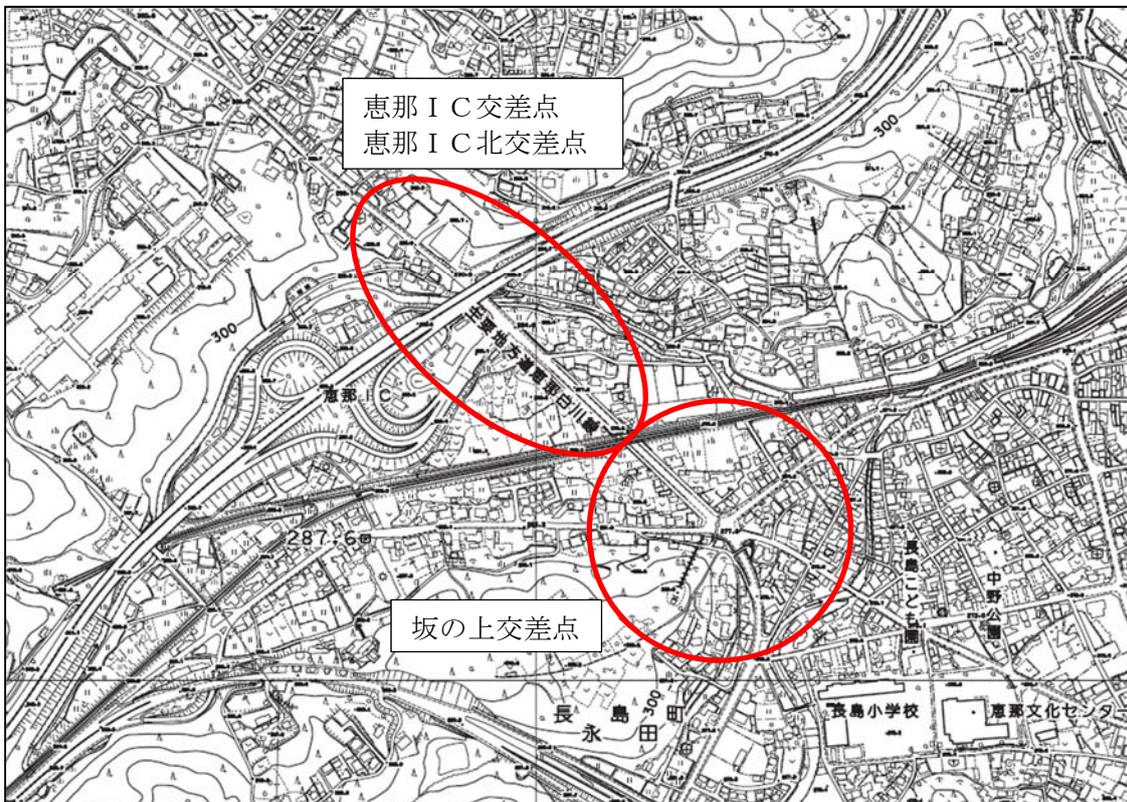
前期計画においては、①主要地方道恵那白川線の混雑の解消、②永田ランプの混雑の解消、③市道土々ヶ根観音寺線・市道長島奥戸線の改良、④市街地南側から入る道路軸の強化に取り組みます。

市街地環状道路



(2) 県道恵那白川線の混雑の解消

計画では、県道恵那白川線を市街地環状線として設定することとしています。しかし、県道恵那白川線は、恵那インターチェンジ交差点、恵那インターチェンジ北交差点、坂の上交差点と、恵那市の中でも特に混雑する交差点が複数箇所あります。これらの交差点の混雑を解消するための基盤整備を進めます。



坂の上交差点



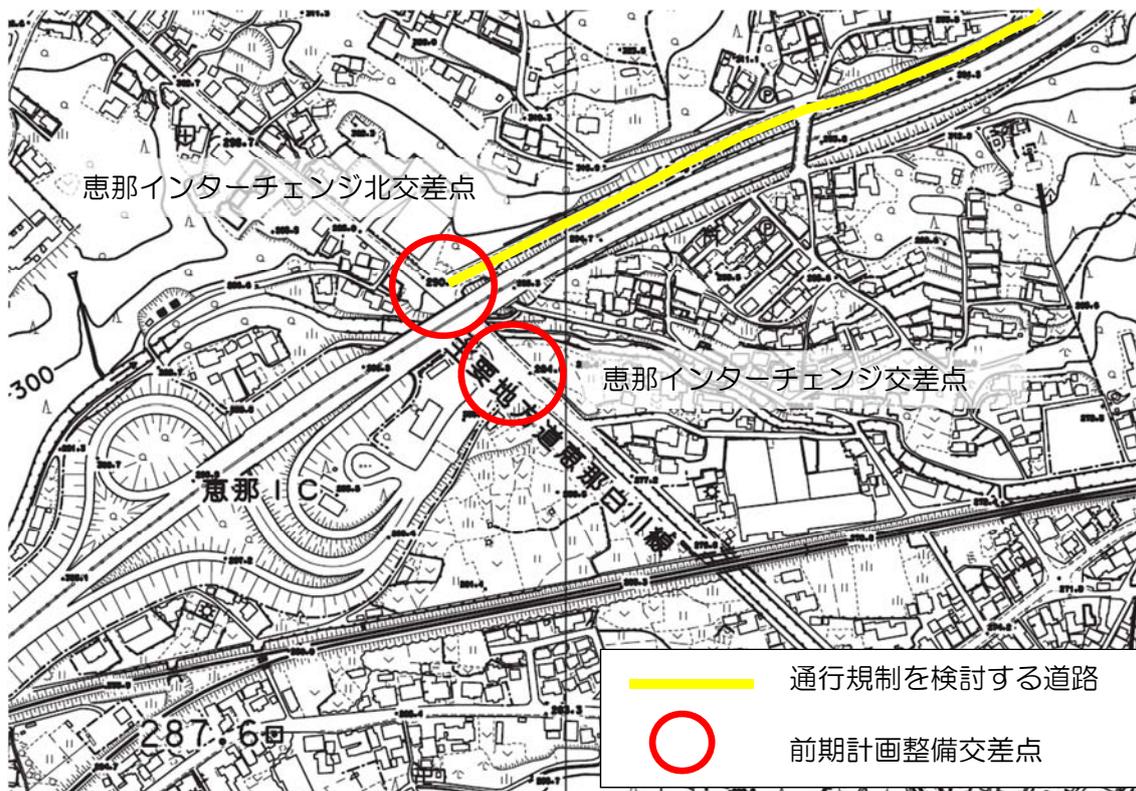
恵那インターチェンジ交差点



坂の上交差点鳥瞰図

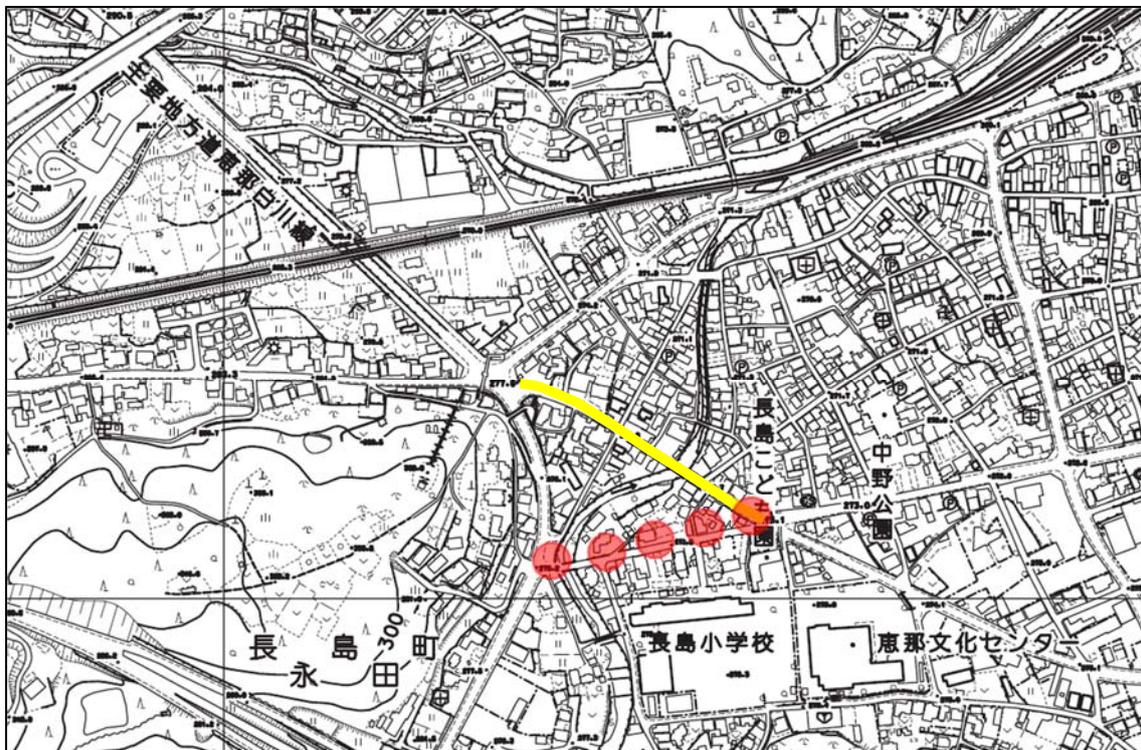
1) 恵那インターチェンジ・恵那インターチェンジ北交差点の通行規制等

恵那インターチェンジ・恵那インターチェンジ北交差点の混雑の原因の一つとして、主要地方道恵那白川線から右折で主要地方道恵那蛭川東白川線に入る際に、右折帯が短く、直進車も通行できなくなることが挙げられます。この交差点は、中央道の高架になっていることや、隣に川があることなどで、交差点改良が難しい状況にあります。そのため、両交差点の信号制御や主要地方道恵那蛭川東白川線の通行規制等について検討を進めます。



2) 坂の上交差点の混雑の解消

坂の上交差点は変則の五差路となっており、恵那市の交差点の中でも特に渋滞の度合いが高い交差点となっています。この交差点への流入量を減らすため、都市計画道路神明前一丁田線の一部について通行規制を行うことが一つの方法と考えます。また、通行規制を行う際には、その代替路線として都市計画道路羽根平学頭線の一部を改良します。

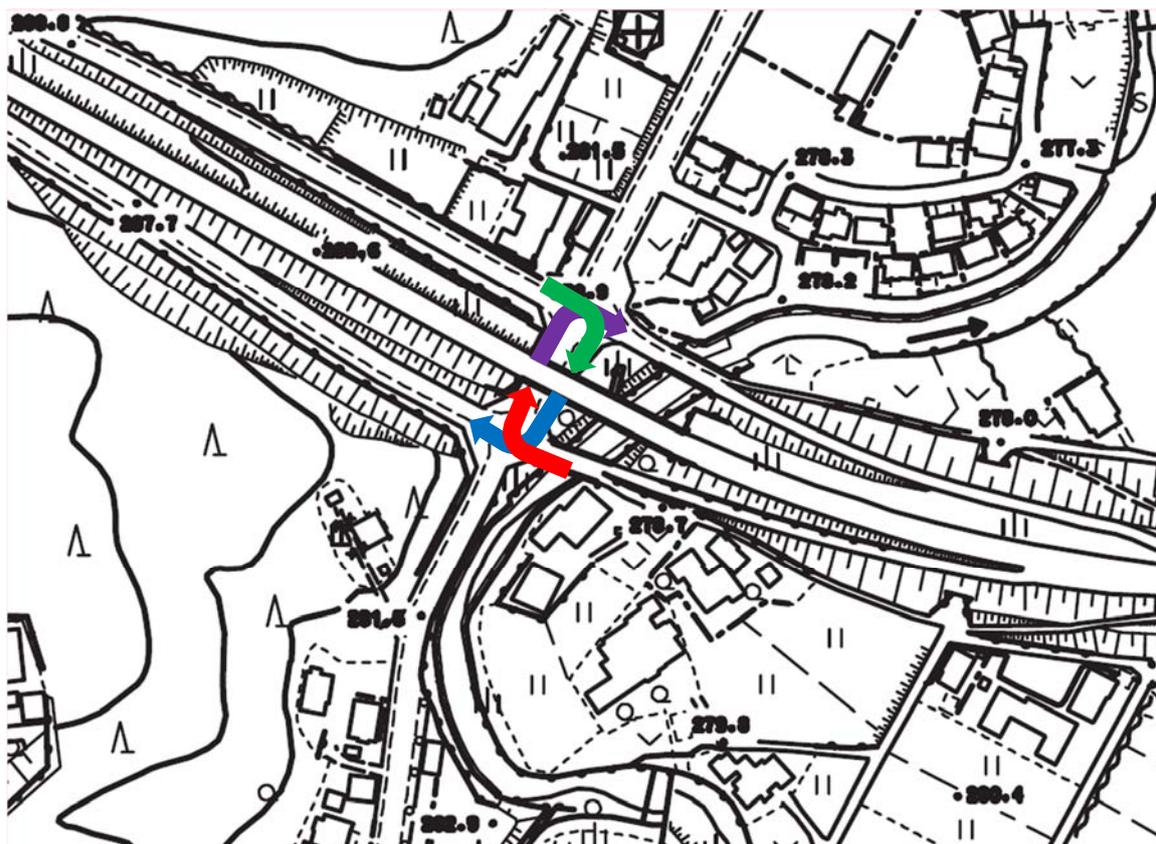


整備期間（予定） 令和3年～令和9年	 通行規制を検討する道路  前期計画整備道路
--------------------	---

(3) 永田ランプの混雑の解消

現在、永田ランプはそれぞれの方向に右折する車で混雑をしています。特に下記図面の赤の矢印での右折車が多く、国道19号本線の交通に影響が出ることもあります。また、永田ランプは小中学校の通学路に指定されていますが、交通量が多い交差点でありながら信号が設置されていない状況です。加えて、永田ランプはリニア軌道の工事の際に建設発生土を運搬するルートに指定される可能性が高く、早期の対策が必要となります。

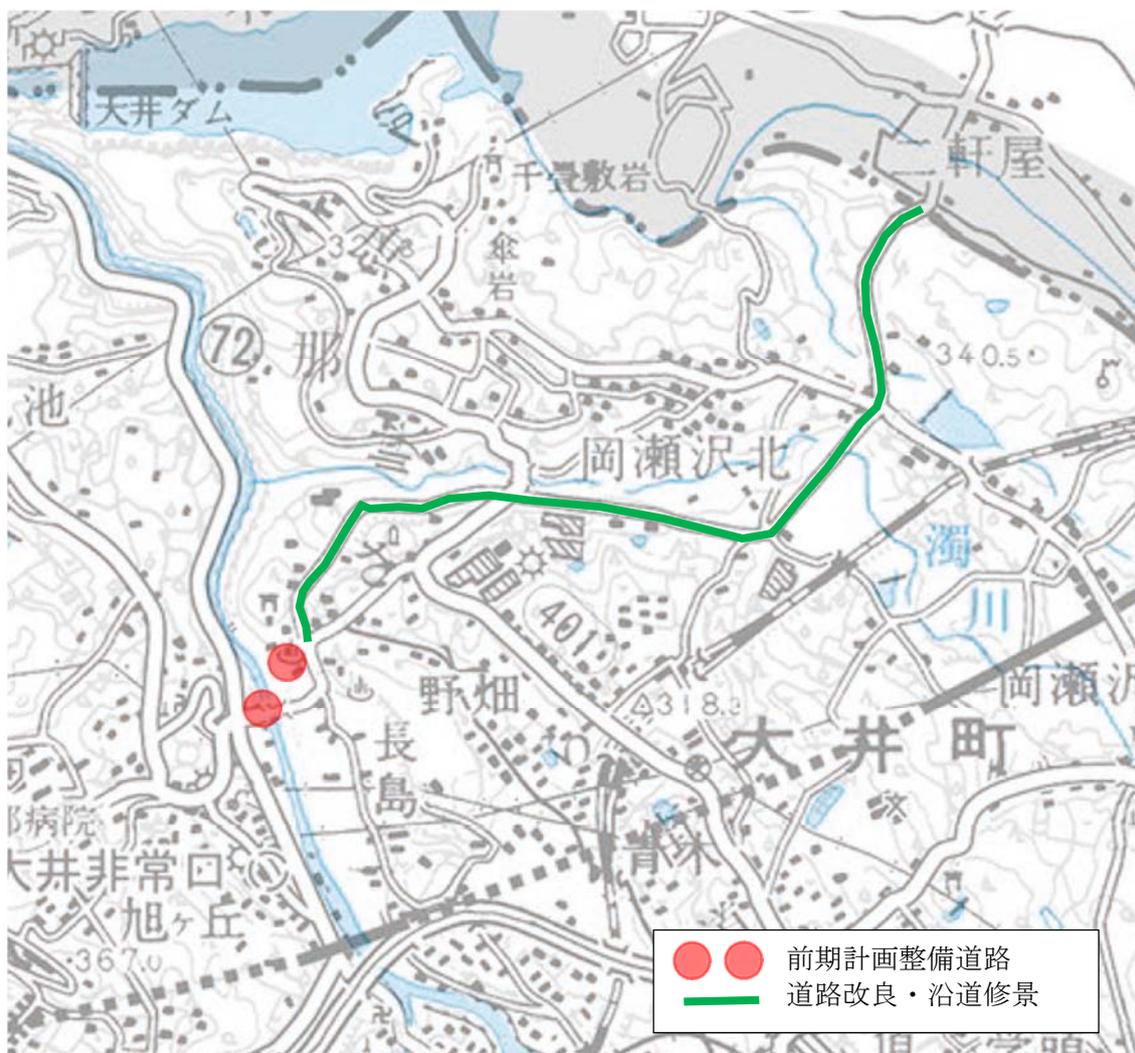
これらの問題の解消のためには、それぞれの道路に右折帯を設けると共に、信号を設置して交通を制御するなどの対策が必要と認識しています。現在の利用状況などの調査、課題の整理を行い、国や岐阜県、警察など関係機関と調整を行います。



(4) 市道土々ヶ根観音寺線・市道長島奥戸線の改良

市道土々ヶ根観音寺線、市道長島奥戸線は、市街地環状道路及び北ルートとなり、重要な道路となるため、道路改良や沿道の修景を行います。

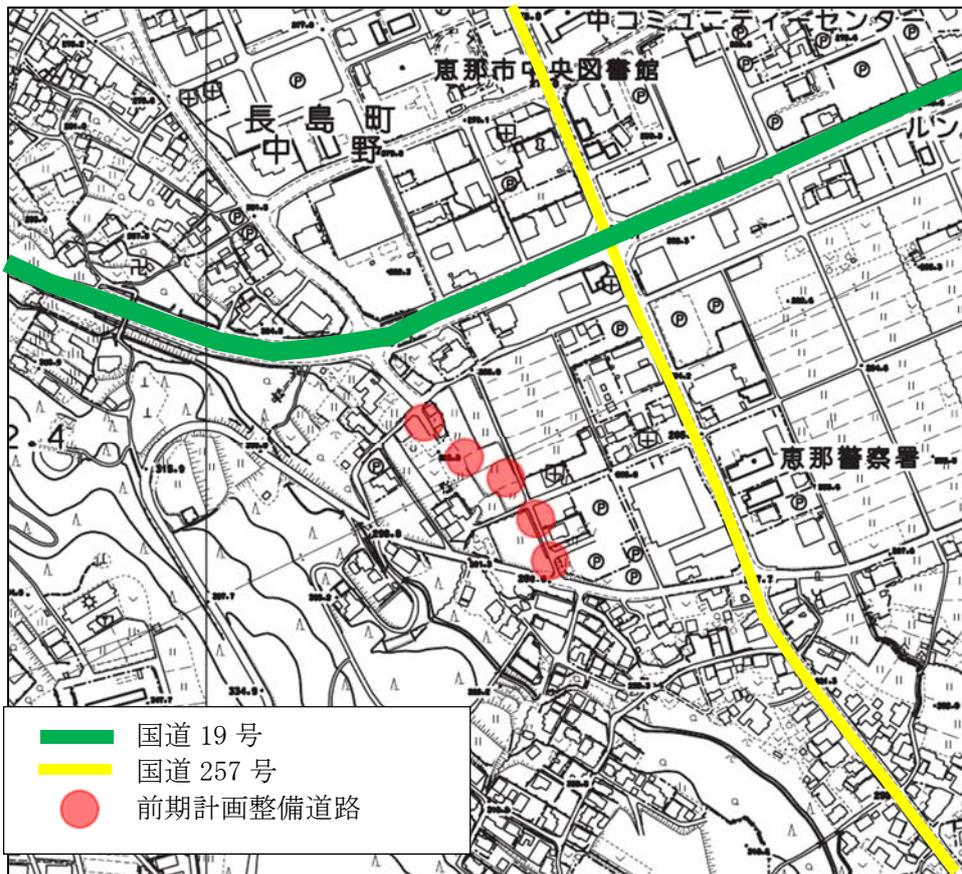
また、市道長島奥戸線には14tの荷重制限がかかっている河鹿橋があるため、安全面を考慮し、架け替え若しくは橋梁の補強を行います。



整備期間（予定） 令和3年～9年

(5) 市街地南側から入る道路軸の強化

現在は、南部地域や中津川市阿木方面からの自動車が市街地に入る際には、国道 257 号に集中し、混雑する原因となっています。都市計画道路葛沢桑下線の整備を進めることにより、南部地域・中津川市阿木方面からの自動車の通行を分散化させ、国道 19 号や市街地にスムーズに流入することができるため、混雑の解消を図ることができます。

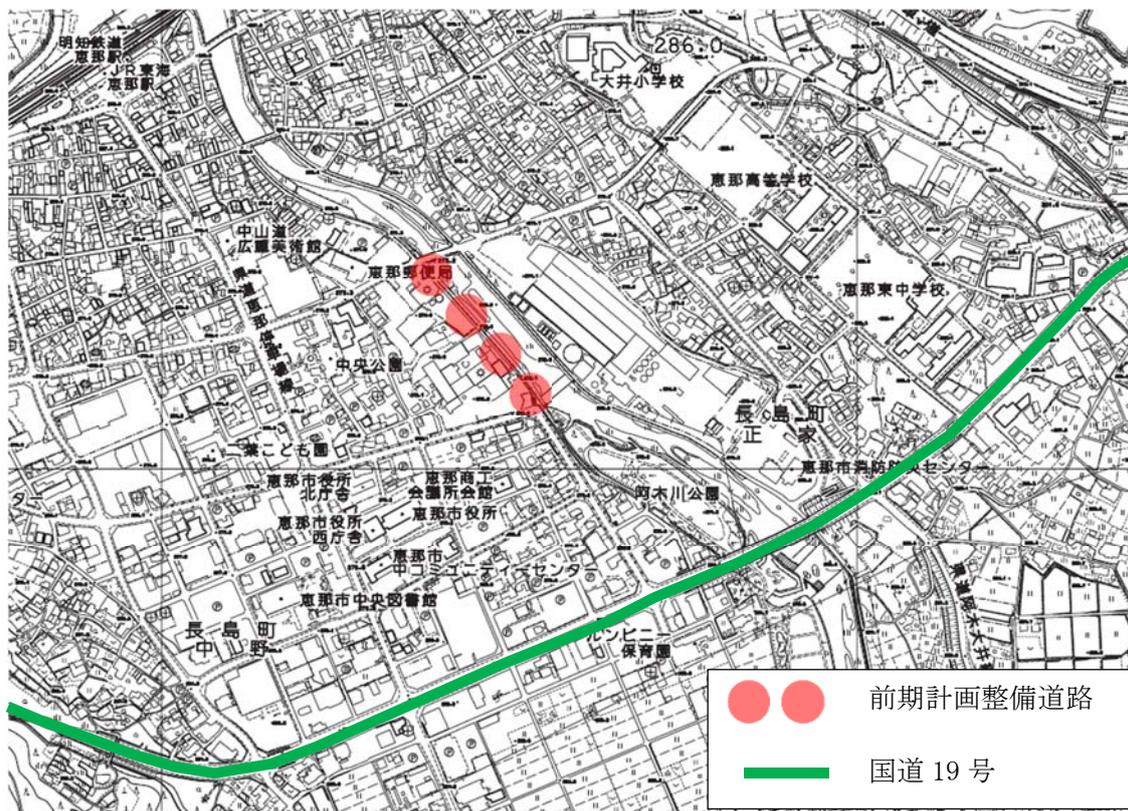


整備期間 (予定) 令和 2 年～ 6 年

3 市街地縦断道路の整備

南北を結ぶ幹線道路の整備

恵那市街地を利用する車の多くが県道恵那停車場線に集中しているため、南北を結ぶ道路軸を強化し、交通を分散化するため、都市計画道路寺平的ヶ屋敷線の整備を進めます。この路線の整備を進めることにより、恵那市南部地域・中津川市阿木方面からの自動車の通行を分散化させ、スムーズに国道19号や市街地に接続することができるため、県道恵那停車場線の混雑の解消を図ることができます。



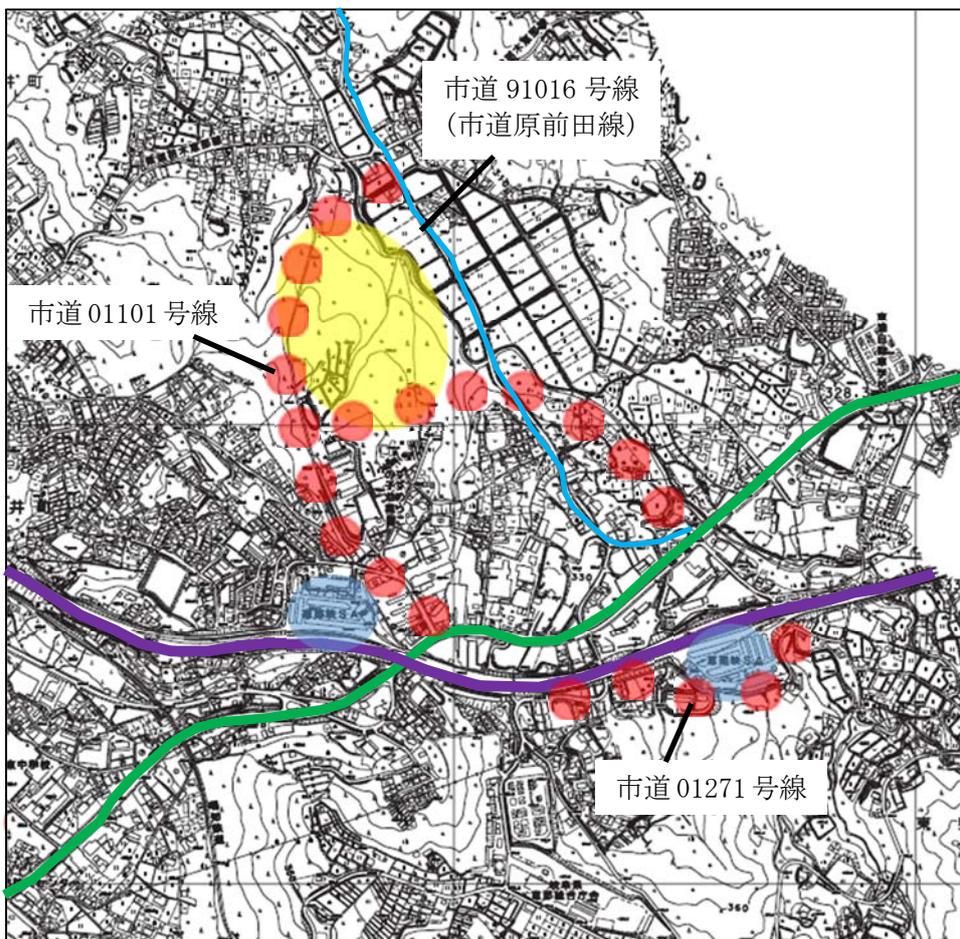
整備期間（予定） 令和3年～令和8年

4 スマートインターチェンジ及びアクセス道路整備

恵那インターチェンジ交差点、恵那インターチェンジ北交差点、坂の上交差点の混雑の解消を行うには、恵那ICの利用者を分散させることが肝要です。その方策の一つとして、恵那峡サービスエリアにスマートインターチェンジの設置に向けて調整を図ります。また、スマートインターチェンジへのアクセス道路として、市道01101号線、市道91016号線の改良を行います。

スマートインターチェンジの設置及び市道01101号線、市道91016号線（市道原前田線）、市道21271号線の改良を行うことにより、恵那峡方面からの観光客等をスマートインターチェンジに誘導することができます。また、市道91016号線（市道原前田線）の改良は、国道19号原西交差点の交差点部の利便性を向上させ、スマートインターチェンジ間のアクセス能力を高めます。これにより、沿道の商業地利用の可能性が高まり、沿道地域の活性化に繋がります。

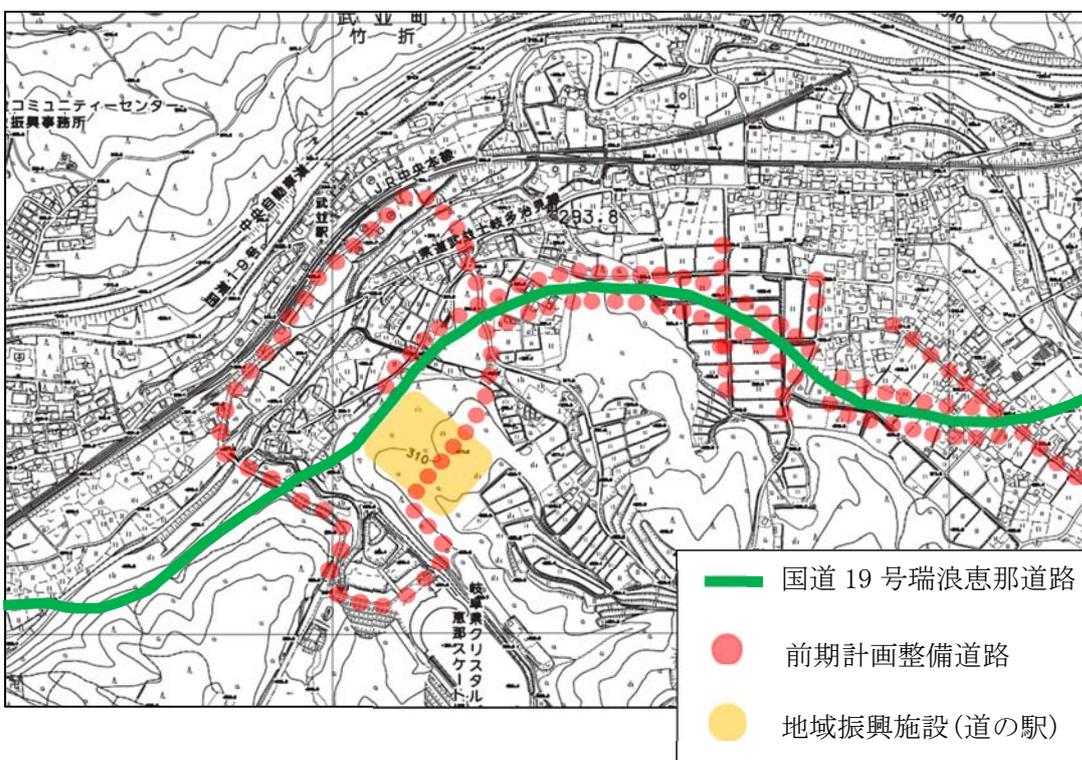
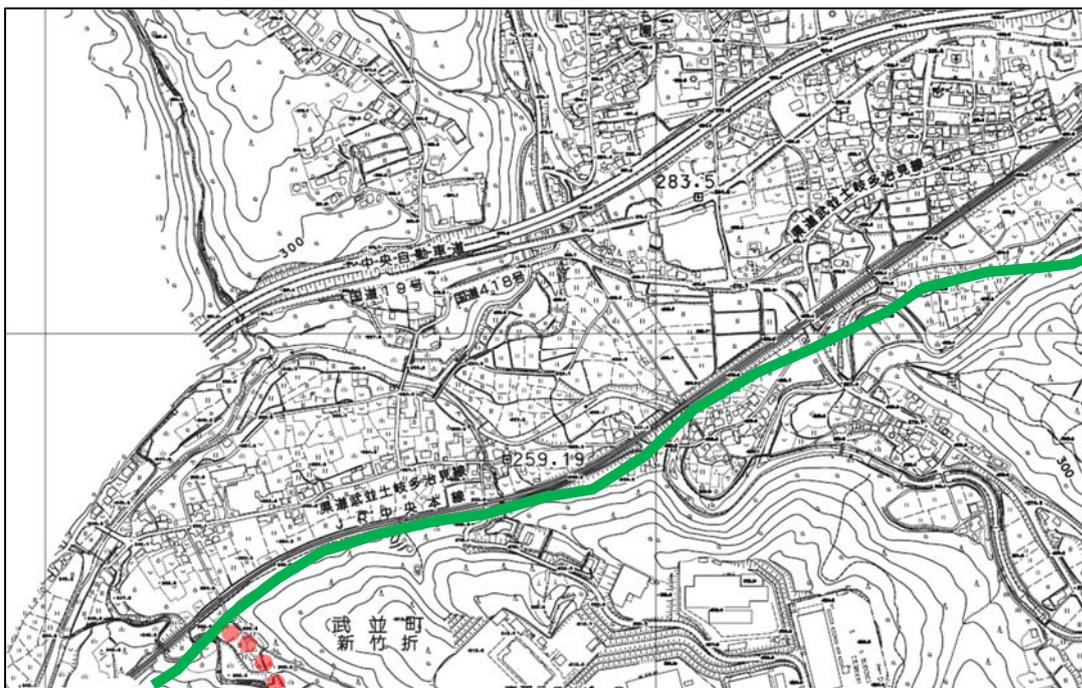
さらに、スマートインターチェンジができることの効果を最大限に発揮するため、市道01101号線沿いに企業用地を設け、産業の振興を図ります。

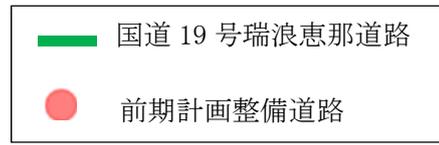
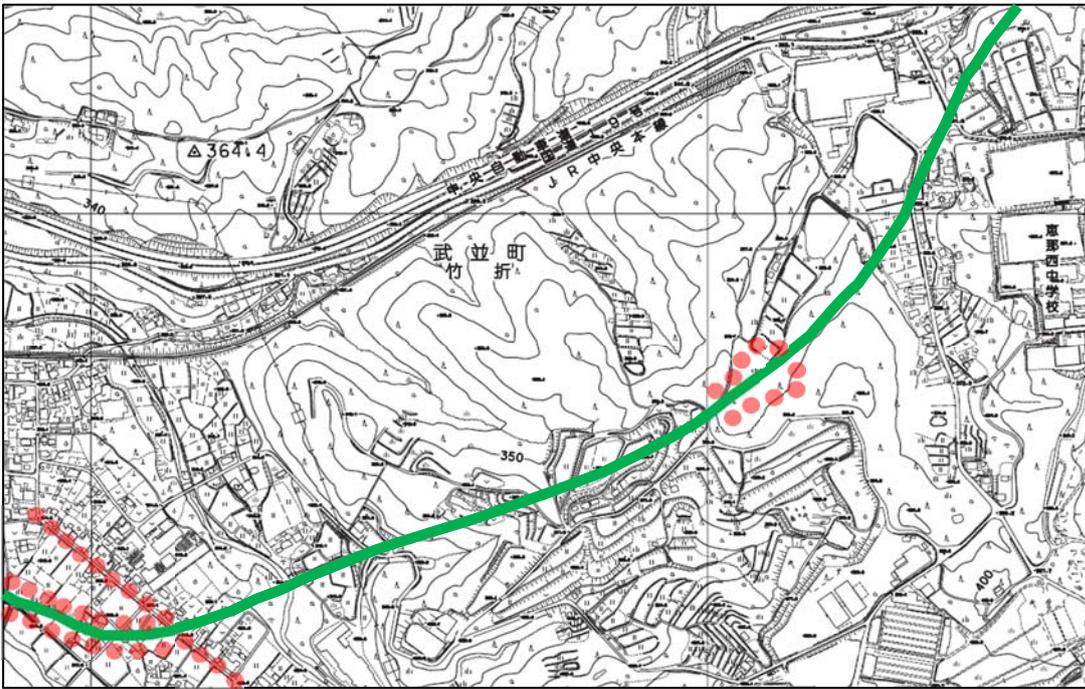


5 瑞浪恵那道路整備に伴う周辺道路整備と武並駅周辺の基盤整備

現在、渋滞、事故等の交通課題の解消や、リニア中央新幹線の開業時の地域貢献に寄与するため、国道19号瑞浪恵那道路の整備が進んでいます。これに合わせ、瑞浪恵那道路沿線の取付け道路等の調整を図りながら進めます。

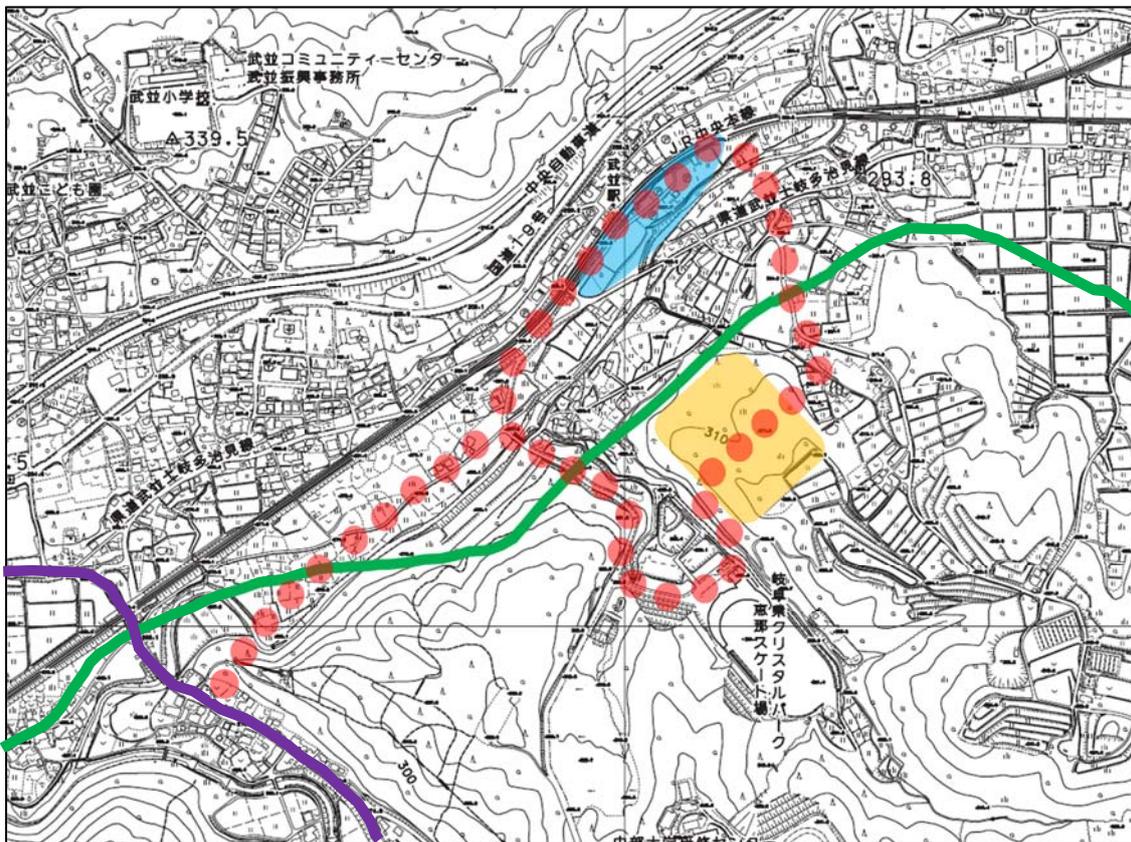
(1) 瑞浪恵那道路整備に伴う周辺道路の整備





(2) 武並駅周辺の基盤整備

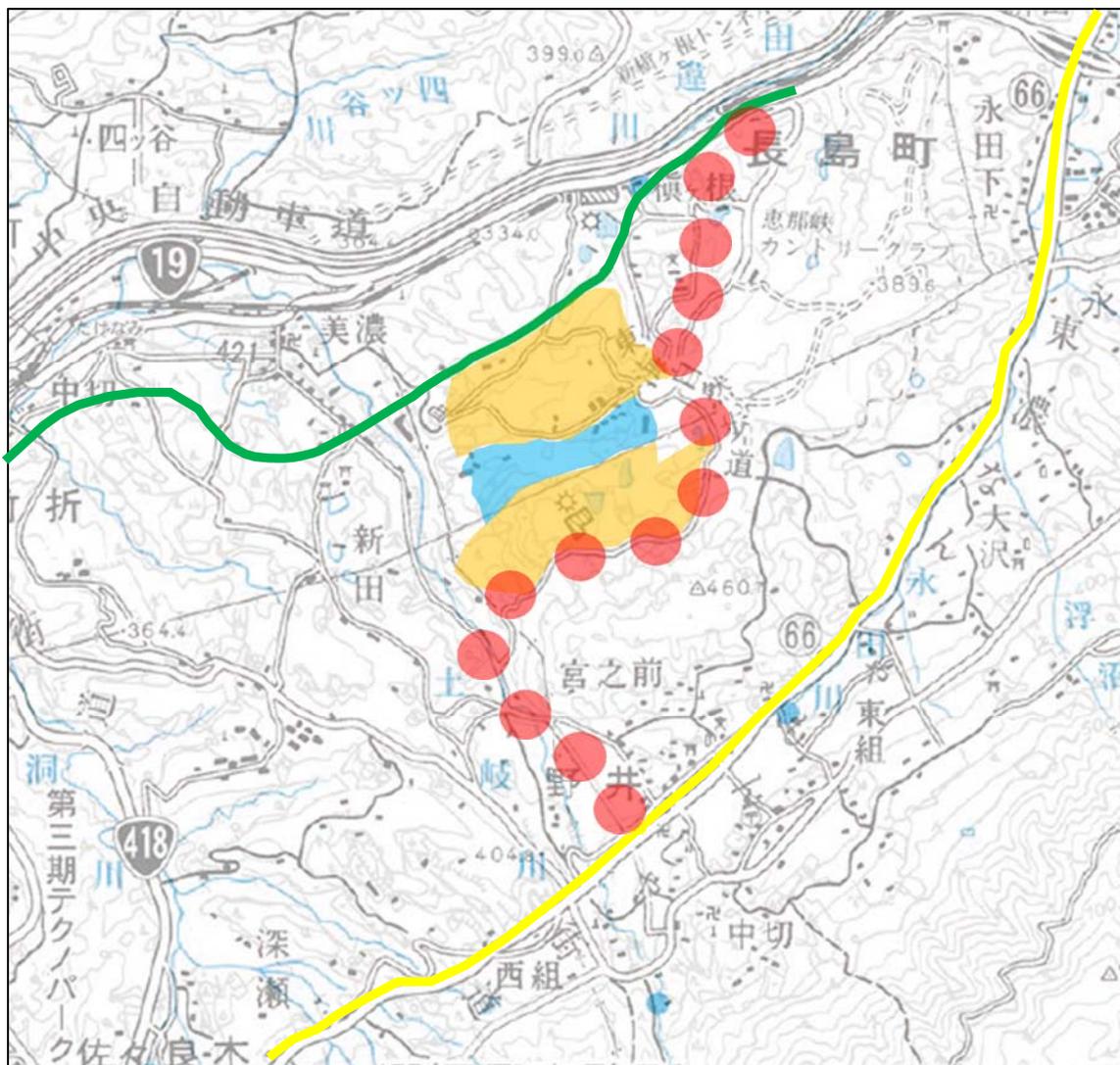
前期計画では、武並駅周辺から岐阜県クリスタルパーク恵那スケート場（以下「クリスタルパーク」という。）までのエリアについて整備を行います。武並駅周辺は、パーク&ライド駐車場等の整備を、クリスタルパーク北側に道の駅等の地域振興施設（道の駅）の整備を行うよう計画を策定し、調整を図ります。また、このエリアを囲うような道路の整備を行います。



<p>地域振興施設・パーク&ライド駐車場整備 整備期間（予定） 令和3年～9年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域振興施設（道の駅） ● パーク&ライド駐車場 ● 前期計画整備道路 — 国道 19 号瑞浪恵那道路 — 国道 418 号
<p>パーク&ライドとは 出発地からは自動車を利用し、途中で電車やバスなどに乗り換えて目的地まで移動する方式のこと。</p>	

6 恵那西工業団地及びアクセス道路の整備

既存の工業団地である恵那テクノパークは、平成26年に完売しており、進出意向のある企業にこたえる事が出来ない状況にあります。そこで恵那市では、新たな働く場の創出による定住人口の拡大を目指して、恵那西工業団地及びアクセス道路の建設を進めます。



恵那西工業団地造成
 整備期間（予定） 平成27年～令和3年

アクセス道路整備
 整備期間（予定） 平成30年～令和8年

- 恵那西工業団地
第1期事業区域
- 工業団地構想エリア
- 前期計画整備道路
- 国道19号瑞浪恵那道路
- 主要地方道多治見恵那線

7 リニア軌道により分断される道路・水路等の機能回復

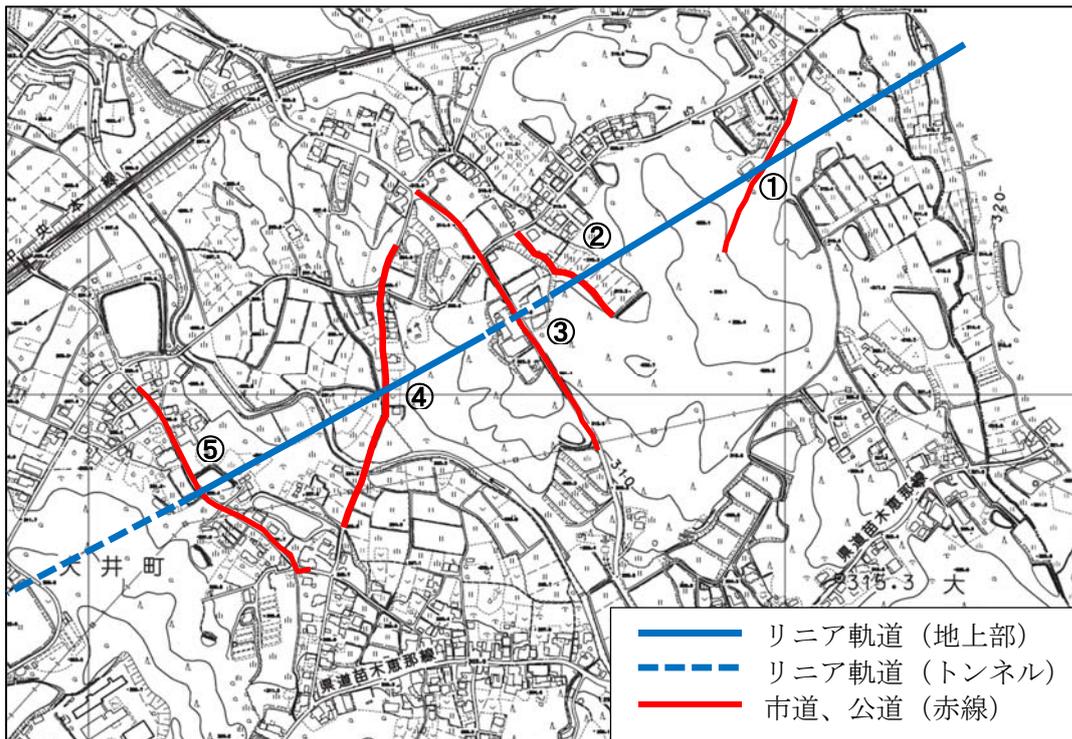
リニア軌道により分断される道路・水路等は、その機能を早期に回復させる必要があります。道路の幅員を確保するだけでなく、安全性や利便性についても担保できる機能回復を図ります。現在の機能についてはJR東海にて回復することとなりますが、機能を向上させる部分については、恵那市にて行います。機能回復については、機能回復にかかる費用をJR東海が負担し、市で施工することを基本に考えています。

リニアの地上部区間で公道と交差する箇所は以下のとおりです。（幅員単位:m）

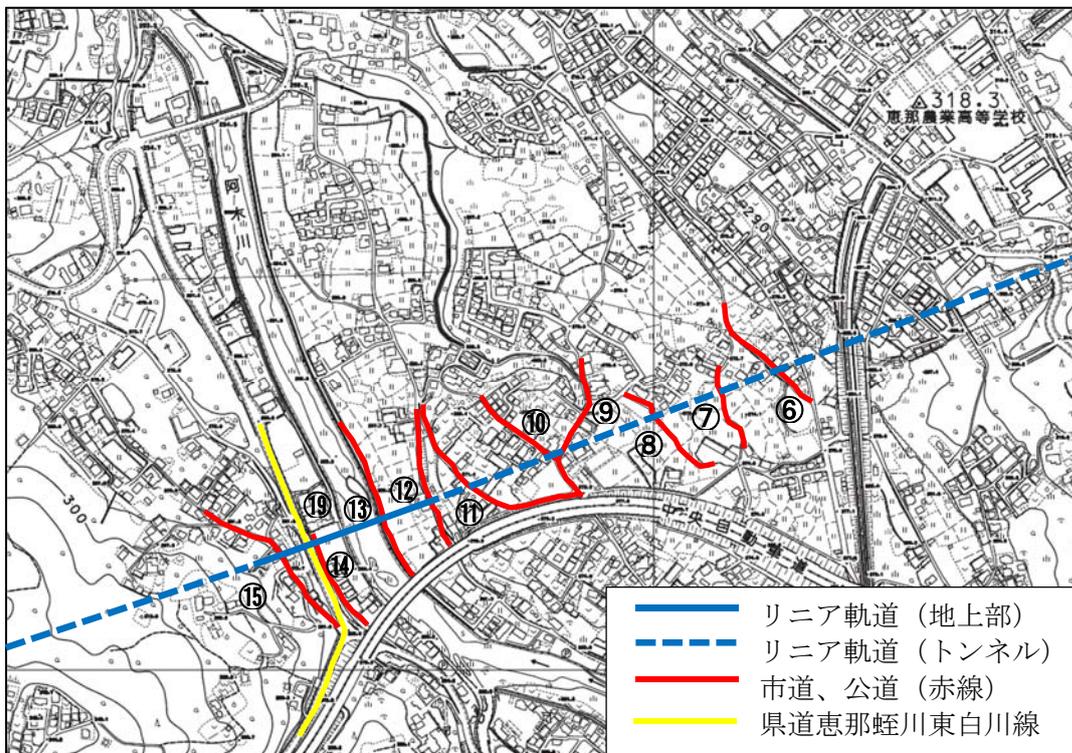
番号	地区	道路名	現況幅員	交差形状
①	大井町2区	公道(赤線)	2.2	掘り割り (3.5m防音壁)
②		市道 01079 号	2.2	掘り割り (緩衝工)
③		市道 91008 号	7.8	大井第1トンネル
④		市道 92015 号	3.6	濁川右岸 橋梁区間 空頭 H=4.5m
⑤		市道 01083 号	4.2	トンネル入口 掘り割り(防音防災フード)
⑥	大井町7区	市道 01117 号	3.0	半地下構造 (土被り)
⑦		公道(赤線)	2.4	半地下構造 (土被り)
⑧		公道(赤線)	1.5	半地下構造 (土被り)
⑨		市道 92018 号	5.0	半地下構造 (土被り)
⑩		市道 01131 号	6.0	半地下構造 (土被り)
⑪		市道 01118 号	3.7	半地下構造 (土被り)
⑫		市道 91018 号	4.3	大井長島線 空頭 H=4.0m
⑬		市道 01080 号	4.0	阿木川右岸 空頭 H=4.3m
⑭		市道 01163 号	3.7	阿木川左岸 空頭 H=4.7m
⑮	大井町8区	市道 01171 号	4.5	トンネル入口 掘り割り(防音防災フード)
⑯	武並町藤	公道(赤線)	2.0	トンネル入口 掘り割り(防音防災フード)
⑰		市道 05085 号	3.6	橋梁区間 空頭 H=5.0m
⑱		市道 05071 号	3.0	平面 (緩衝工)
⑲	大井町7区8区	県道 72 号	9.5	
⑳	武並町藤	国道 418 号	10.5	橋梁区間 空頭 H=6.0m

リニア軌道と道路の交差箇所図

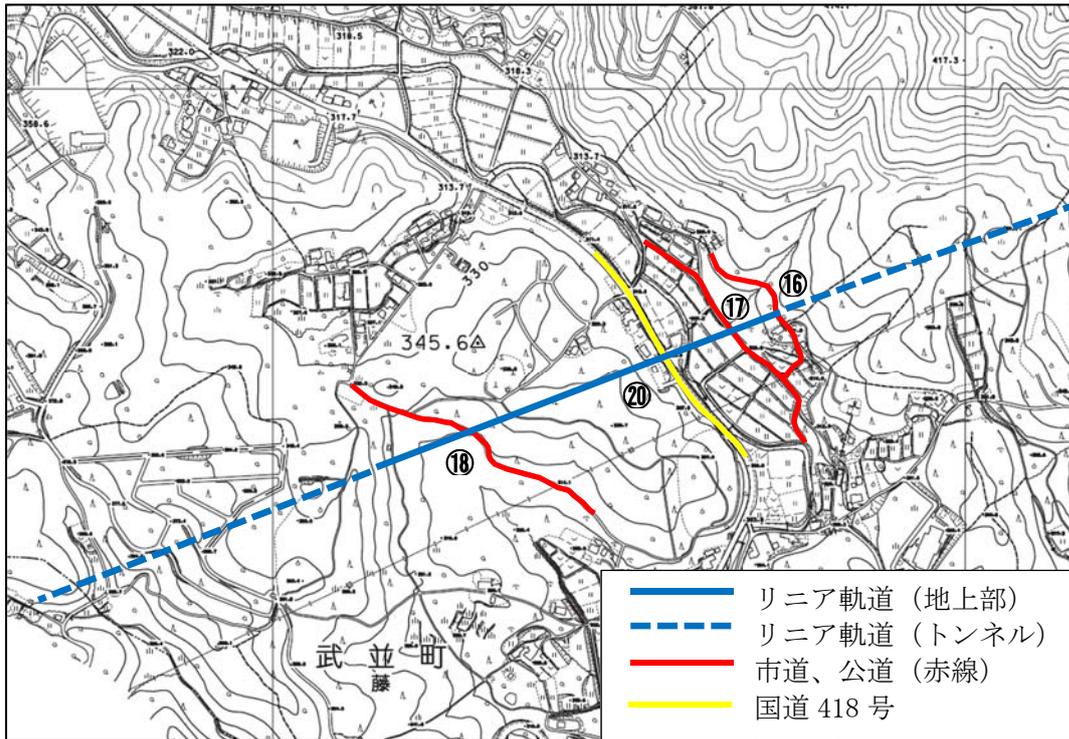
大井町東地区



大井町7・8区



武並町藤地区



リニアが開通後は、リニアと交差する市道については改良が難しくなると予想されます。現在の利用状況や将来の利用の予測から、以下の交差箇所については、現在より幅員を広くした形で機能回復を行い、将来の市道改良に備えます。

○機能を上げる道路

(幅員単位:m)

番号	地区	道路名	現況幅員	計画幅員	交差形状
②	大井町2区	市道01079号	2.2	5.0	掘り割り (緩衝工)
③		市道91008号	7.8	12.0	大井第1トンネル
④		市道92015号	3.6	7.5	濁川右岸 橋梁区間 空頭 H=4.5m
⑤		市道01083号	4.2	7.5	トンネル入口 掘り割り(防音防災フード)
⑥	大井町7区	市道01117号	3.0	5.0	半地下構造 (土被り)
⑨		市道92018号	5.0	7.5	半地下構造 (土被り)
⑩		市道01131号	6.0	7.5	半地下構造 (土被り)
⑪		市道01118号	3.7	5.0	半地下構造 (土被り)
⑫		市道91018号	4.3	7.5	大井長島線 空頭 H=4.0m
⑬		市道01080号	4.0	5.0	阿木川右岸 空頭 H=4.3m
⑭		市道01163号	3.7	5.0	阿木川左岸 空頭 H=4.7m
⑮	大井町8区	市道01171号	4.5	7.5	トンネル入口 掘り割り(防音防災フード)
⑰	武並町藤	市道05085号	3.6	5.0	橋梁区間 空頭 H=5.0m
⑱		市道05071号	3.0	5.0	平面 (緩衝工)

機能を上げる道路について、それぞれの路線の機能回復の考え方を以下に示します。

②市道01079号線

市道01079号線は、掘割構造のリニア軌道と交差するため、どのような形で機能回復を行うか、地元及びJR東海と協議を進めます。リニア開業後は改修が困難になることが予想されるため、リニアの工事に合わせて道路幅員を5.0mとして改修を行います。

整備期間(予定) 令和5年～7年

③市道91008号線(市道奥戸前田線)

市道91008号線は、トンネル構造のリニア軌道と浅い深さで交差します。リニア開業後は改修が困難になることが予想されるため、リニアの工事に合わせて道路幅員を12.0m(両側歩道4.0m)として改修を行います。

整備期間(予定) 令和5年～7年

④市道 92015 号線（市道牛馬場吉丁田線）

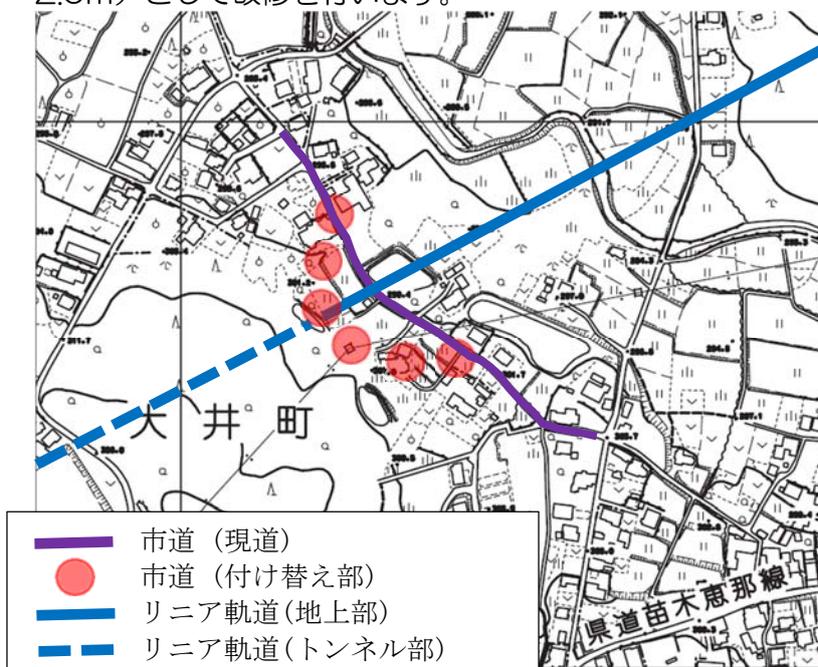
市道 92015 号線は、リニア軌道が橋梁構造で頭上を通ることとなります。リニア開業後は改修が困難になることが予想されるため、リニアの工事に合わせて道路幅員を 7.5m（内歩道 2.0m）として改修を行います。また、道路面から橋梁までの高さが 4.5 m となり、必要な離隔が確保できないため、どのような施工とするかを地元や JR と調整を図り、機能回復を行います。

整備期間（予定） 令和 2 年～ 4 年

⑤市道 01083 号線

・市道 01083 号線

市道 01083 号線は、リニア軌道により分断されることとなります。付け替えについては、現道の西側にてリニア軌道の上を越す形で行います。リニア開業後は改修が困難になることが予想されるため、リニアの工事に合わせて道路幅員を 7.5m（内歩道 2.0m）として改修を行います。



整備期間（予定） 令和 5 年～ 7 年

⑥市道 01117 号線

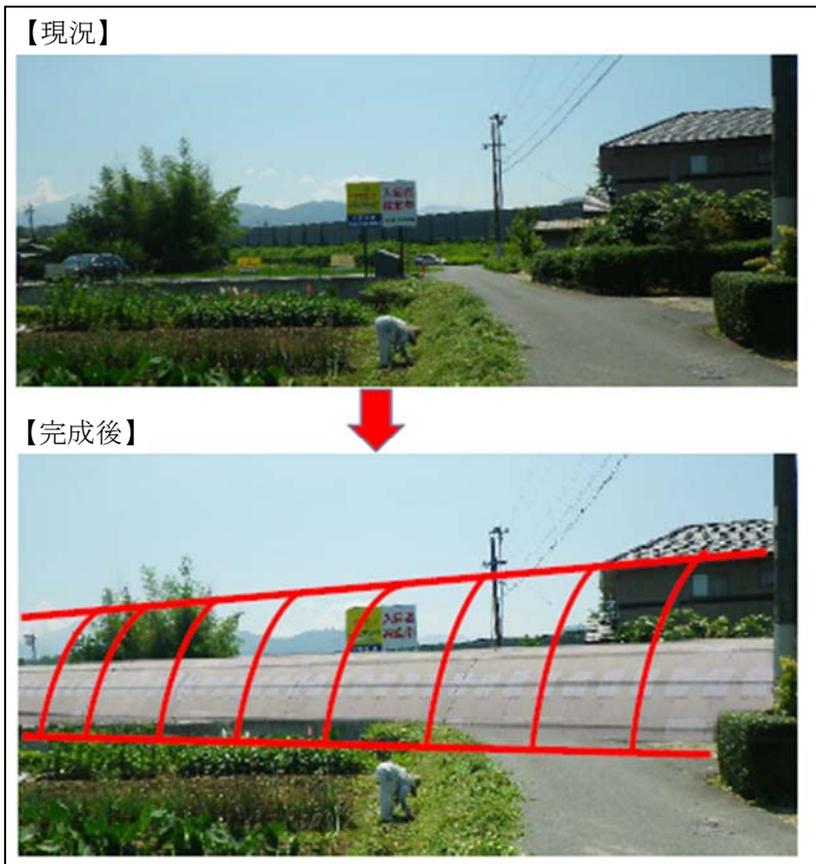
市道 01117 号線は、トンネル構造のリニア軌道と浅い深さで交差します。リニア開業後は改修が困難になることが予想されるため、リニアの工事に合わせて道路幅員を 5.0m として改修を行います。

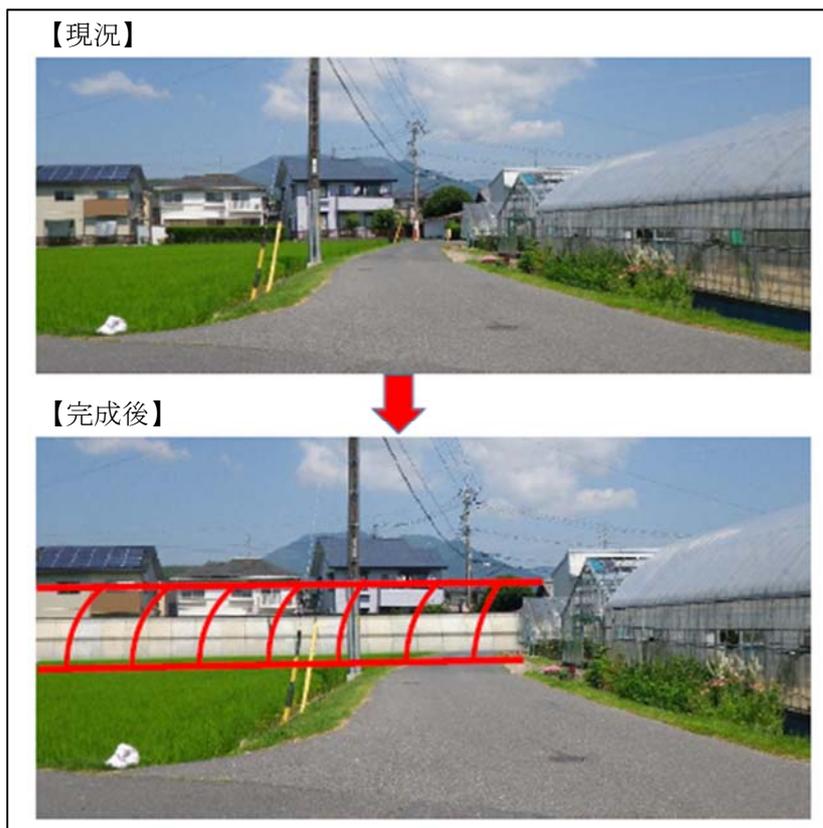
整備期間（予定） 令和 2 年～ 4 年

◎市道 92018 号線（市道野畑野尻線）⑩市道 01131 号線⑪市道 01118 号線
 ⑫市道 91018 号線（市道大井長島線）⑬市道 01080 号線

野尻野畑地区のリニアの工事では、現在の地盤に改良土を盛った後にトンネルを掘る工法をとり、約 500mにわたり地域が分断され、影響の大きな地域となります。道路では、市道 92018 号線、市道 01118 号線が分断されます。市道 92018 号線については、リニア軌道の上を越す形で道路を付け替えますが、歩行者や自転車での利用者が不便になることもあり、リニア軌道の両脇に側道を設けて影響が最小限になるよう道路を建設します。

完成後のイメージ





- ※ 恵那市作成資料に岐阜県リニア推進事務所が一部加工
- ※ 赤のハッチング部分が土盛りとなる予定



北陸新幹線 類似工法箇所（富山市北代地区）

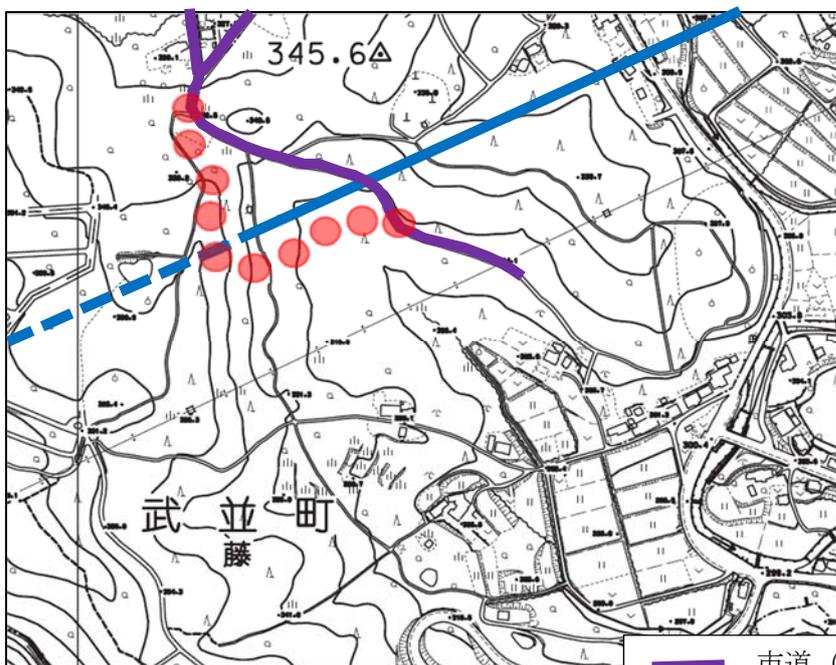
⑰市道 05085 号線

市道 05085 号線は、リニア軌道が橋梁構造で頭上を通ることとなります。リニア開業後は改修が困難になることが予想されるため、リニアの工事に合わせて道路幅員を5.0mとして改修を行います。また、道路面から橋梁までの高さは5.0mとなります。

整備期間（予定） 令和2年～4年

⑱市道 05071 号線

市道 05071 号線は、リニア軌道により分断されることとなります。付け替えについては、現道の西側にてリニア軌道の上を越す形で行います。リニア開業後は改修が困難になることが予想されるため、リニアの工事に合わせて道路幅員を5.0mとして改修を行います。

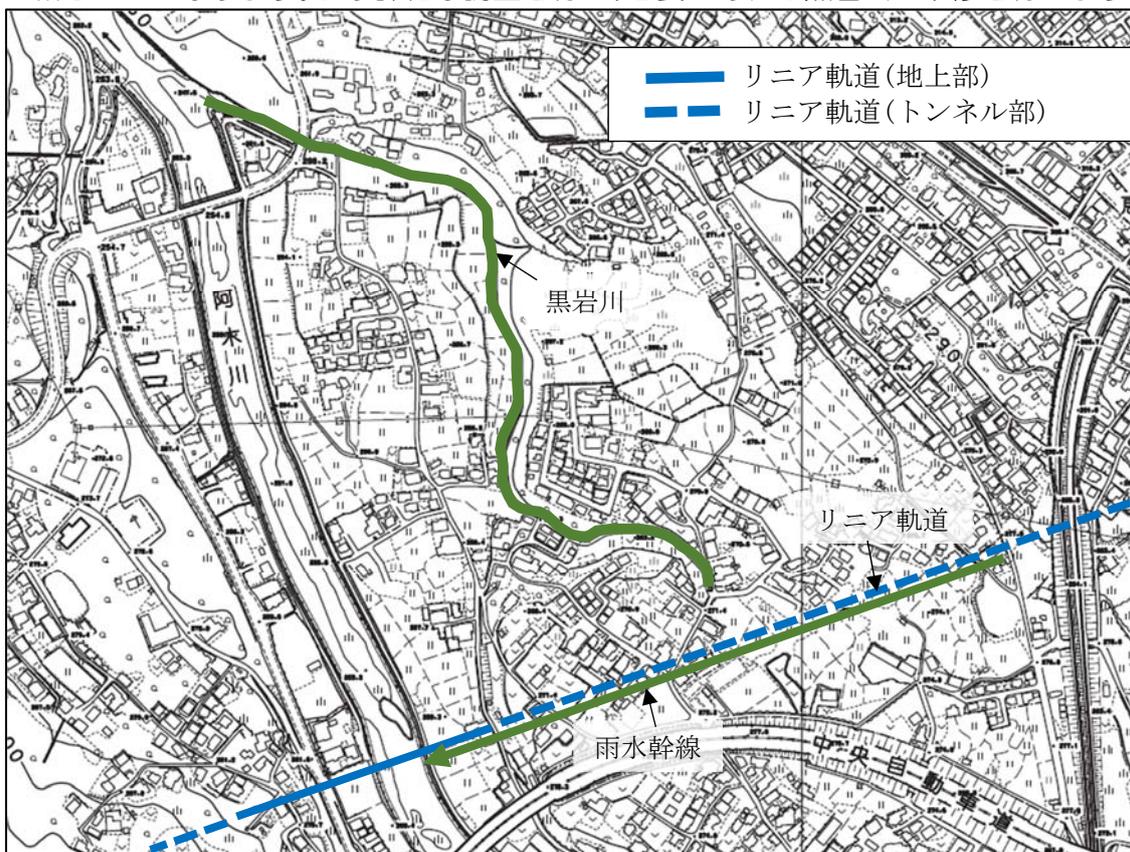


整備期間（予定） 令和4年～6年

- 市道（現道）
- 市道（付け替え部）
- リニア軌道（地上部）
- - - リニア軌道（トンネル部）

・阿木川右岸第6雨水排水幹線、黒岩川

野尻野畑地区の雨水排水は、山本用水を流れていますが、リニア軌道により分断されるため、リニア軌道の南側に新たな幹線を設けます。これまで、大雨の際に黒岩川が溢水することが問題となっていたますが、新たな幹線に水を流すことで黒岩川への流入量が減ることとなります。より詳細な調査を行い、必要であれば黒岩川の改修を行います。



整備期間 (予定) 令和3年～7年

以下の道路については、現在の機能の回復を行います。

○現道並みの機能回復を行う路線

番号	地区	道路名	現況幅員	交差形状
①	大井町2区	公道(赤線)	2.2	掘り割り (3.5m防音壁)
⑦	大井町7区8区	公道(赤線)	2.4	半地下構造 (土被り)
⑧		公道(赤線)	2.4	半地下構造 (土被り)
⑯	武並町藤	公道(赤線)	2.0	トンネル入口 掘り割り(防音防災フード)

7 リニアの工事用道路の計画的利用

大井町東地域や大井町7区では、リニア軌道の工事のための資材等の搬出入を行うための道路が必要となります。

現道を利用する場合は、地域住民の交通に与える影響を最小限にするよう JR 東海と協議を行います。

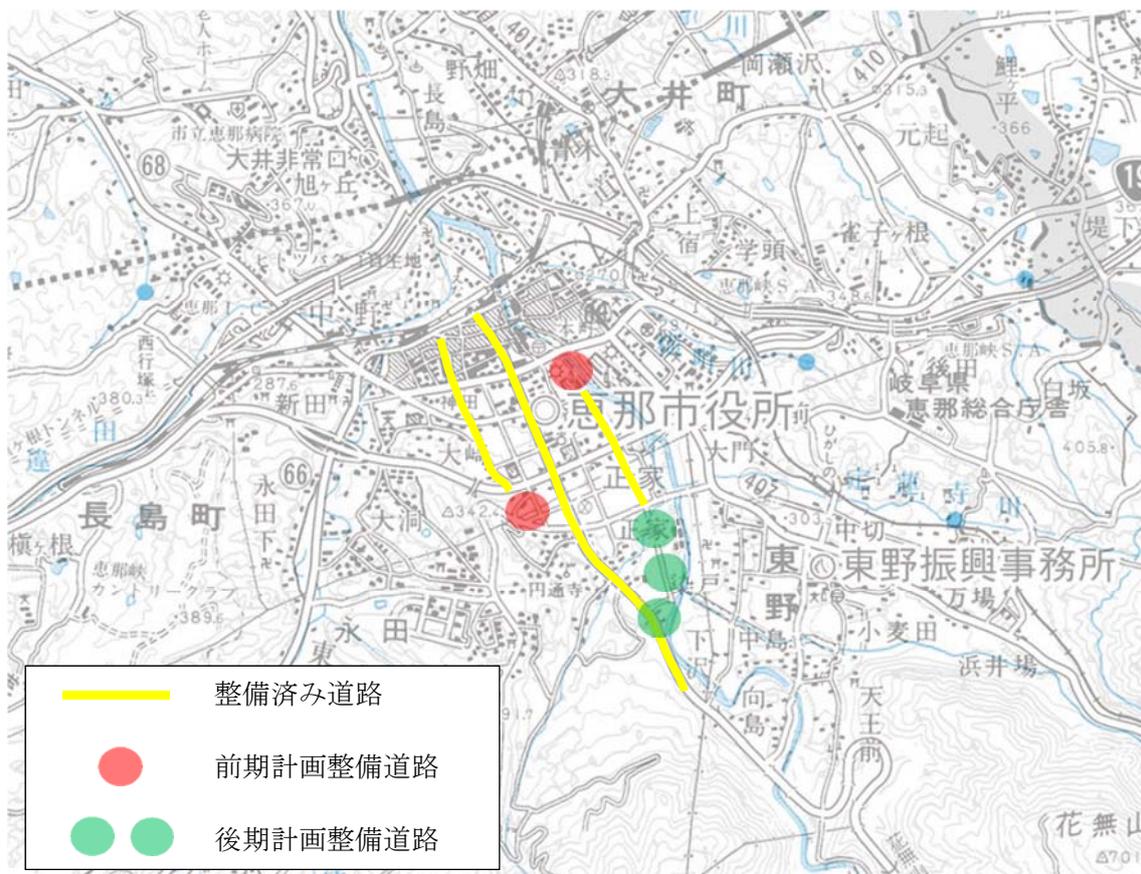
また、工事用道路は工事終了後も恒久的に利用できる道路として改良を行うこととし、費用負担について JR 東海と協議を進めます。

第3章 後期計画（ステップ2）

1 市街地縦断道路の整備

（1）南北を結ぶ幹線道路の整備

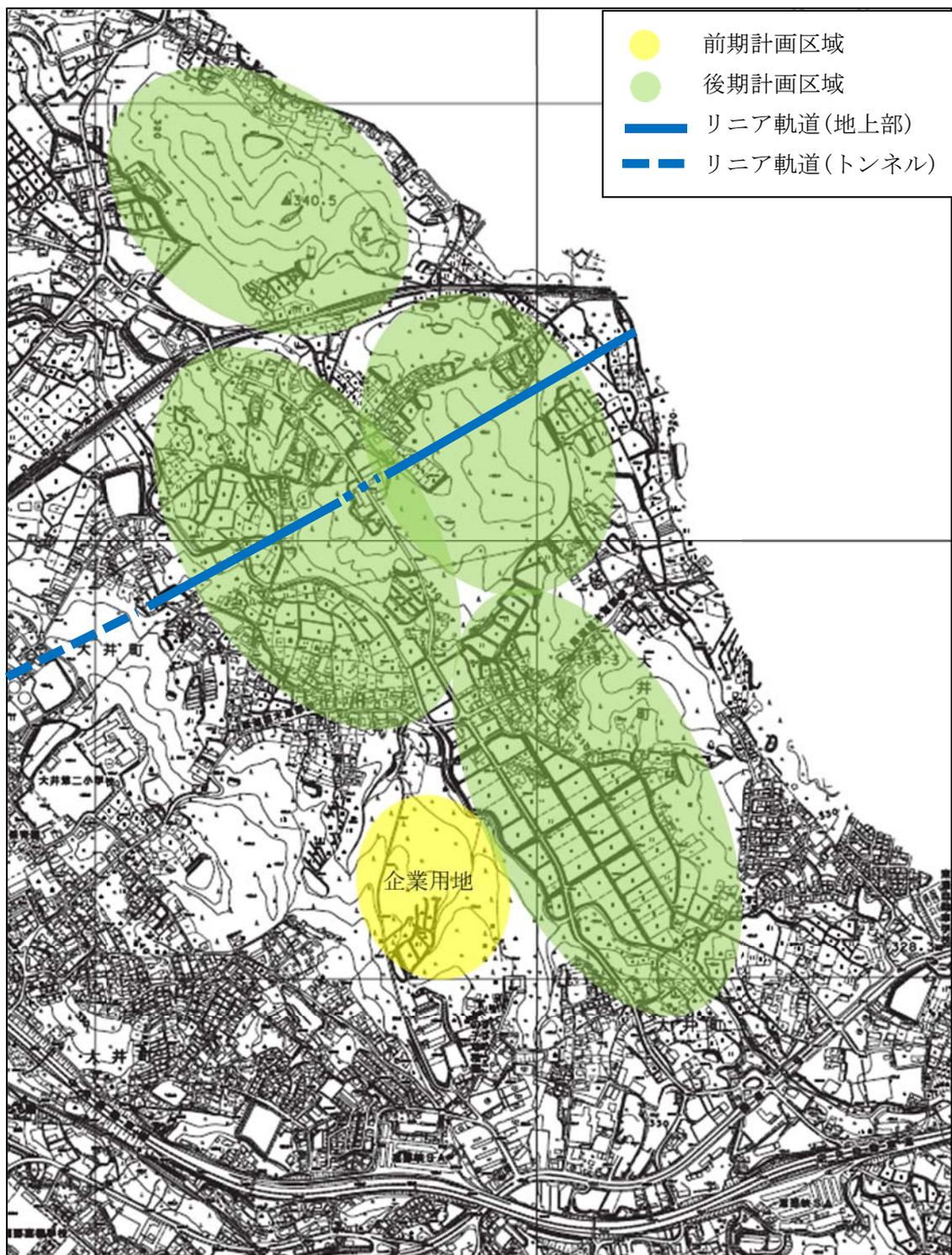
恵那市街地を利用する車の多くが県道恵那停車場線に集中しているため、南北を結ぶ道路軸を強化する必要があるため、都市計画道路寺平的ヶ屋敷線の整備を進めます。この路線の整備を進めることにより、恵那市南部地域・中津川市阿木方面からの自動車の通行を分散化させ、スムーズに国道19号や市街地に流入させることができるため、国道257号や県道恵那停車場線の混雑の解消を図ることができます。



2 リニア及び瑞浪恵那道路沿線地域のまちづくり

(1) 大井町東地域

大井町東地域については、恵那市の中でもリニア岐阜県駅に近く、幹線道路に接しています。こうした戦略的な土地利用を図ることができるポテンシャルを活かし、地元と協議を行い、賑わいを創出できるまちづくりを進めます。



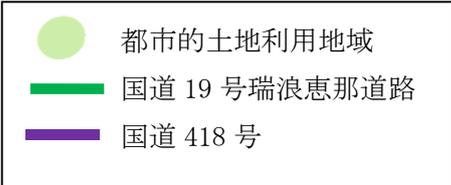
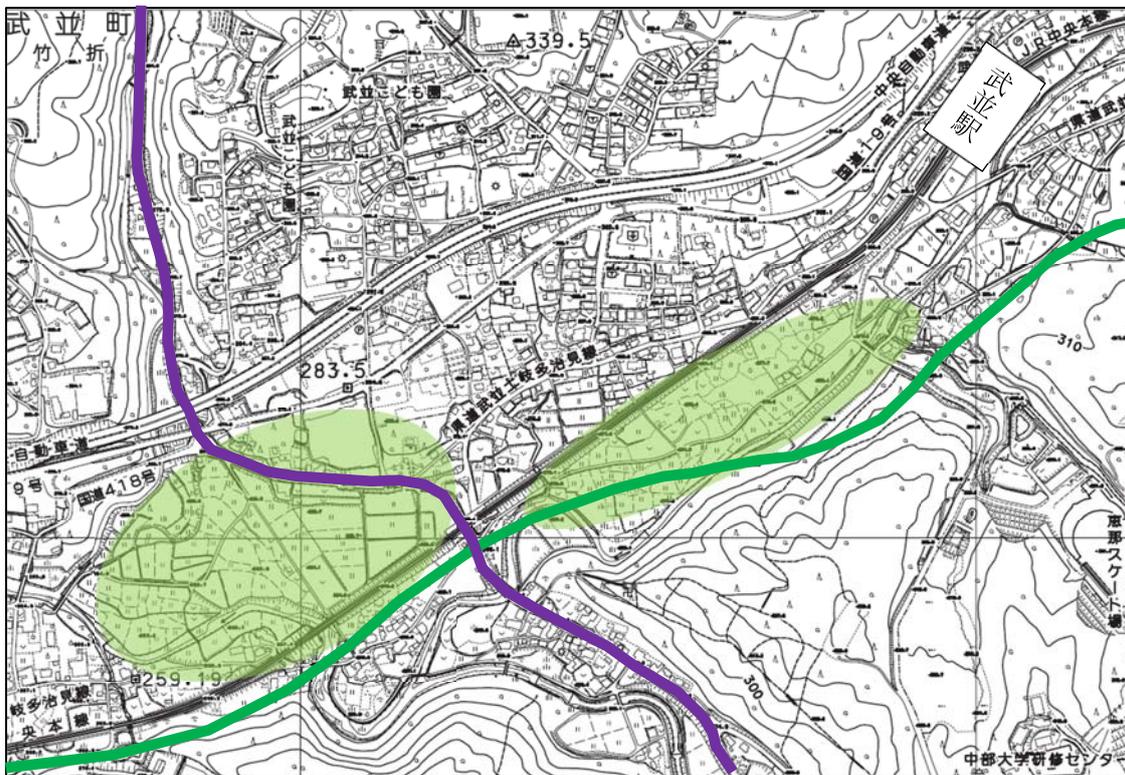
(2) 大井町7区

大井町7区の野尻・野畑・大井長島地区は、恵那駅・恵那IC・市立恵那病院に近く戦略的な土地利用を図ることができるポテンシャルを帯びています。このポテンシャルを最大限活かし、地元と協議を行い地域のまちづくりを進めます。また、地域の出入口となる道路が狭隘なため、阿木川への架橋も含め、出入口となる道路の建設を検討します。



(3) 武並駅西部地区

現在、渋滞、事故等の交通課題の解消や、リニア中央新幹線の開業時の地域貢献に寄与するため、国道19号瑞浪恵那道路の整備が進んでいます。また、リニア岐阜県駅に隣接する美乃坂本駅からJR中央本線にて2駅で結ぶ武並駅周辺は、ポテンシャルの高い地域となります。武並駅の西側の地区について、都市的土地利用を促進するための基盤整備を進めます。



第4章 将来計画（ステップ3）

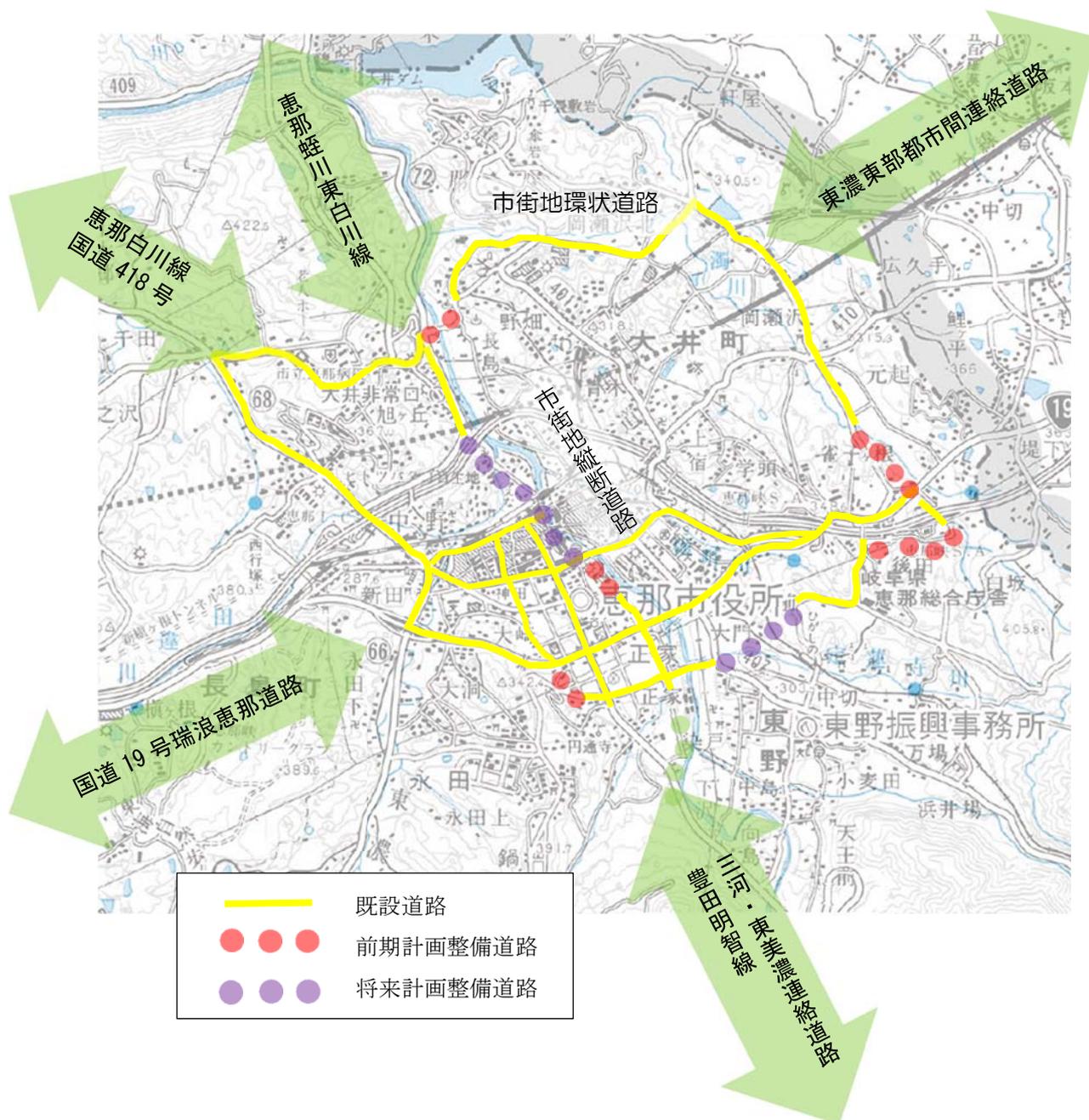
1 市街地環状道路の整備

(1) 市街地環状道路の後期計画における整備方針

市街地環状道路の整備にあたっては、既存道路を有効に活用しながら、必要な区間について順次整備を行います。

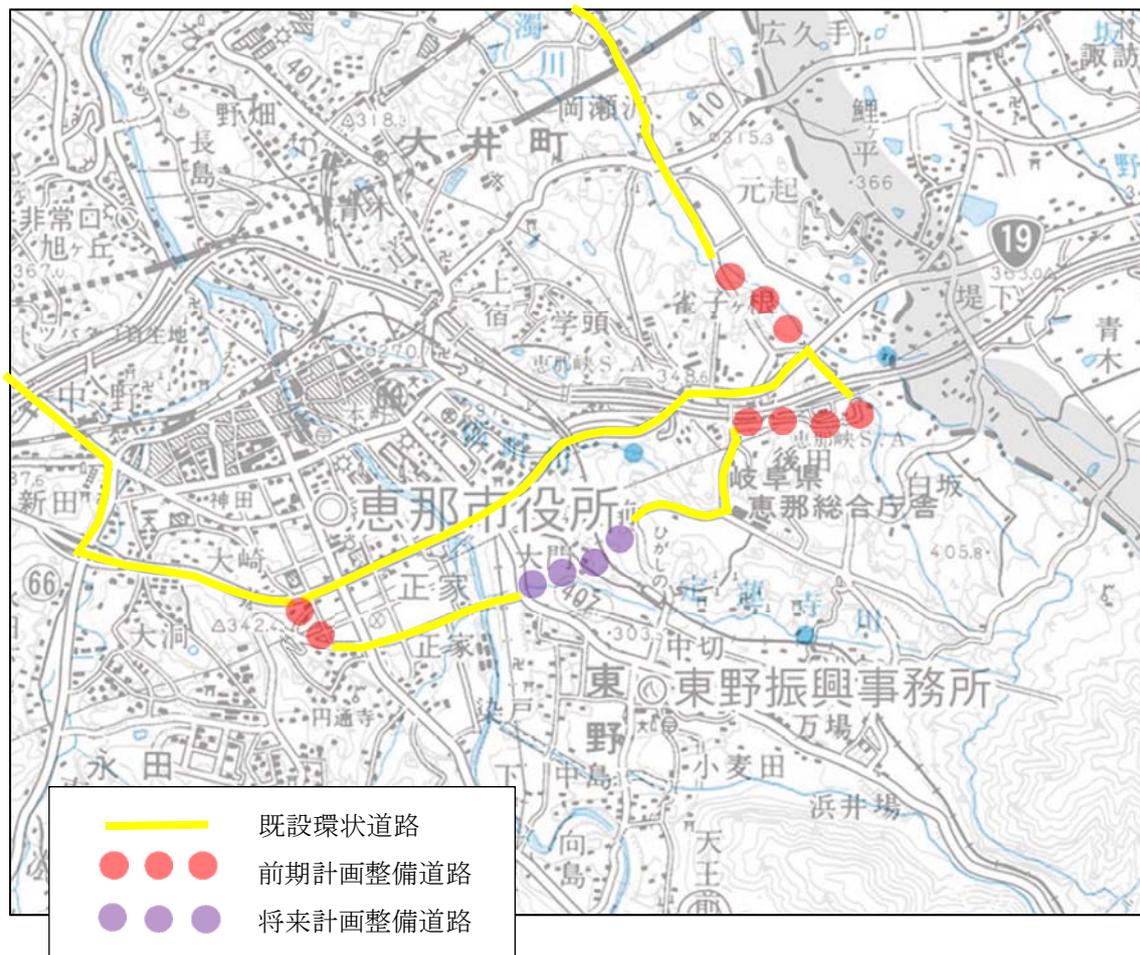
将来計画においては、市道赤田干橋線から市道清水白坂線へ抜ける道路の新設に取り組みます。

市街地環状道路（再掲）



(2) 整備する環状道路

市街地環状道路として整備を行う道路のうち、市道赤田干橋線から市道清水白坂線へ抜ける道路の新設に取り組みます。



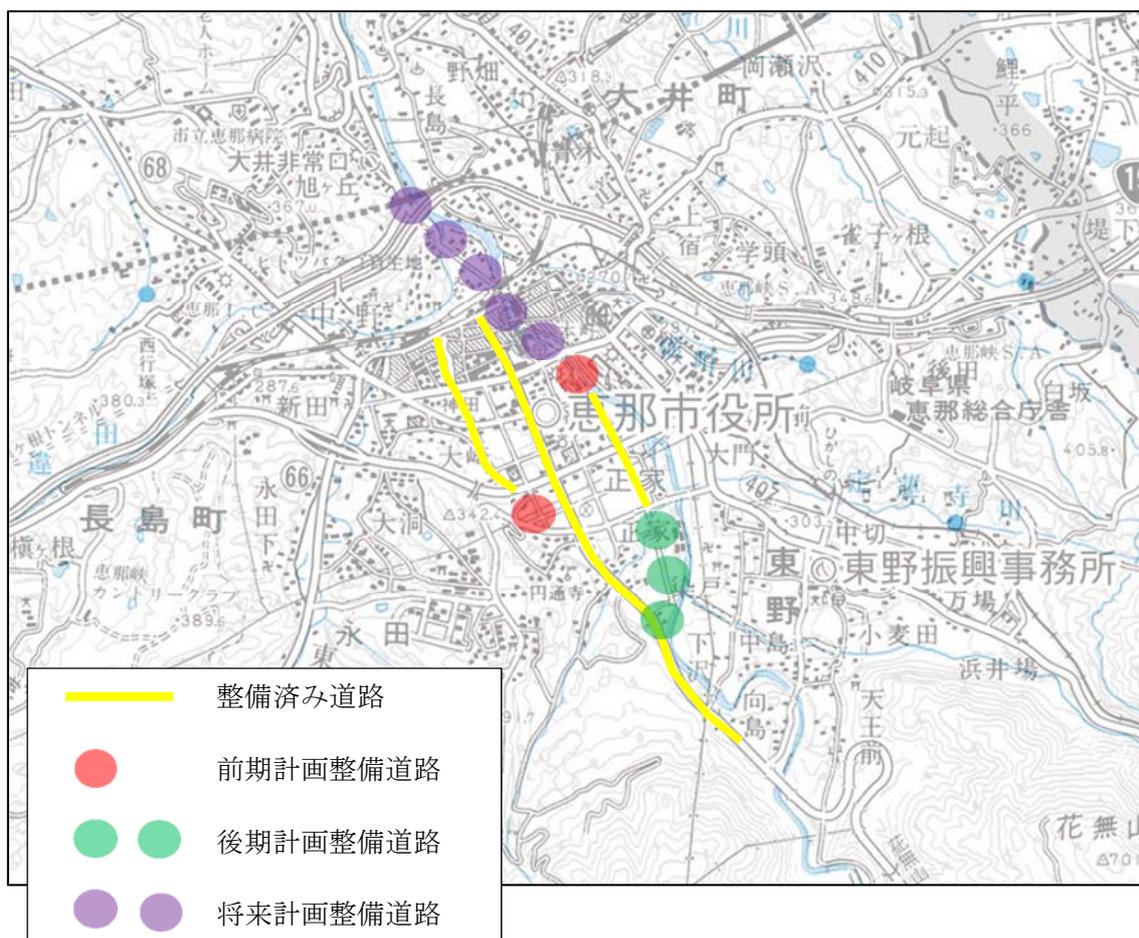
2 市街地縦断道路の整備

(1) 南北を結ぶ幹線道路の整備

恵那市街地を南北方向へ移動する車の多くが県道恵那停車場線に集中しているため、南北を結ぶ道路について道路軸を強化する必要があります。将来計画においては、下記路線の整備を進めます。

1) 都市計画道路寺平的ヶ屋敷線

都市計画道路寺平的ヶ屋敷線の整備を進めることにより、市街地南側から市街地を通り、駅の北まで抜ける幹線道路が完成します。在来線の中央本線より北エリアの自動車の通行を分散させることができるため、主要地方道恵那白川線の混雑の解消を図り、恵那インターチェンジ交差点や坂の上交差点の混雑を緩和することができます。



3 恵那駅北地区の基盤整備

(1) 恵那駅北地区

在来線の中央本線より北エリアでは駅を利用するためには、県道恵那白川線か南北踏切のある都市計画道路寺平的ヶ屋敷線がメインの道路となり、どちらも混雑する路線となっています。恵那駅北側の地区を整備し、恵那駅の北側から恵那駅を利用できるようにすることにより、どちらの路線も混雑の低減を図ることができると考えます。このような理由により、恵那駅北地区の基盤整備の検討を行います。



第5章 計画の推進にあたって

1 計画推進のための取り組み方法

(1) 関係機関との連携

計画を着実に実行して効果を出すためには、国や県、関係他市との連携が不可欠です。道路政策の動向など、積極的に情報収集に努め、調整し連携を図っていきます。また、関連予算の確保のため、補助金や交付金についての動向についても情報収集すると共に、効果的な要望活動を行います。

(2) 地域と一体となった取り組みの推進

各種の基盤整備を進めるためには、地域の理解と協力が不可欠となります。基盤整備に関する市民への周知を図ることで、地域の基盤整備に対する機運の高まりを醸成します。また、目的を持った基盤整備を進めるため、地域はもとより、経済団体や観光協会等の関係団体と連絡調整を図りながら計画を推進します。

(3) 計画の見直し

本計画は、リニアの東京－大阪間開業予定である2037年※以降までを見据えた、長期間にわたる計画となっています。時間経過や社会情勢の変化に伴い、計画の変更が必要となります。毎年、本計画の進行管理を行うとともに、リニアの東京－名古屋間開業となる2027年度には見直しを行い、時代に即した計画とします。

※ JR東海は、東京－大阪間の開業を当初は2045年としていましたが、政府の3兆円の財政投融资により最大8年間前倒しできるとしたため、東京－大阪間の開業を2037年で想定しています。

恵那市リニアまちづくり基盤整備計画策定委員会 委員

(敬称略)

選 定 項 目	氏 名
恵那市地域自治区会長会議を代表する者	
大井町代表	前川 登
長島町代表	山内 達雄
武並町代表	瀨瀬 鍊一
学識経験者	
学識経験者 (中部大学工学部教授)	磯部 友彦
商工業関連団体の構成員	
恵那商工会議所からの推薦	山本 好作
恵南商工会からの推薦	堀 鑛
観光関連団体の構成員	
恵那市観光協会からの推薦	阿部 伸一郎

恵那市リニアまちづくり基盤整備計画策定委員会 オブザーバー

(敬称略)

選 定 項 目	氏 名
道路管理者	
国土交通省中部地方整備局 多治見砂防国道事務所	武田 正昭
岐阜県恵那土木事務所	八田 雅昭

恵那市リニアまちづくり基盤整備計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 リニアまちづくり構想に掲げた施策を基に基盤整備計画を策定するに当たって、実施事業を明確化し、事業を具体的に示してリニア効果を生かしたまちづくりに取り組むため、恵那市リニアまちづくり基盤整備計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、リニアまちづくり構想に基づく恵那市リニアまちづくり基盤整備計画の策定に関する事項その他市長が必要と認める事項を所掌する。

(委員)

第3条 委員会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 地域自治区を代表する者
- (2) 学識経験を有する者
- (3) 商工機関関係者
- (4) 観光機関関係者
- (5) その他市長が必要と認める者

3 委員会は、前項の委員のほか、必要に応じてオブザーバーを置くことができる。

4 オブザーバーは、市長が委嘱する。

5 オブザーバーは、委員会の求めに応じて委員会の会議に出席し、専門的見地から助言又は協力を行うものとする。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から恵那市リニアまちづくり基盤整備計画の策定が終了するまでとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を各1人置く。

2 委員長は、委員の互選により選出し、副委員長は、委員長の指名する者とする。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けた

ときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長が議長となる。ただし、委員委嘱後最初の会議は、市長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員長は、必要に応じて関係者の出席を求めてその意見を聴き、又は関係者から資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、建設部リニアまちづくり課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員会が会議に諮って定める。

附 則

この告示は、令和元年6月1日から施行する。

恵那市リニアまちづくり基盤整備計画
令和元年〇〇月

恵那市建設部リニアまちづくり課
電話 0573-26-2111
FAX 0573-25-8294